

NVR用
操作手順書⑧
イベント（AI/アラーム）項目設定
(1.00版)

2026 年 09 月 15 日



WDJ Hi-Tech Inc.

株式会社 WDJ ハイテク

(1.00 版)

Copyright © 2026 WDJ Hi-Tech Inc. All Rights Reserved.

文書番号:WDJ-Tec-MAN-056



— 変更履歴 —

版数	変更日	区分	変更箇所		変更内容
			頁	項番	
1.00	2026/09/15	新規			新規作成

1. 本手順書に関して	3
2. 画面操作の基本	4
2.1. マウス操作	4
2.2. ソフトウェアキーボード操作	4
3. AI 機能設定	5
3.1. AI 機能画面	6
3.2. スマートプラン	7
3.3. AI 動体検知	8
3.4. AI 境界検知	13
4. イベント検索	17
4.1. インテル検索	17
5. アラーム設定	23
5.1. アラーム入力設定	23
5.2. アラーム出力設定	27
6. ログ	31
6.1. イベントのログ	31
7. 備考	36
7.1. イベントトリガー	36
7.2. アラーム出力端子 リレー仕様	39
7.3. ビデオ検出毎のイベントの考え方	39

1. 本手順書に関して

- ・ 本書は WG-NVR162-S（以下、レコーダー）を、簡単に設定して頂くための手順です。
- ・ 本手順書は、インテル設定（以下、AI 機能）とアラーム設定に限定したものです。
- ・ ご使用のファームウェアによっては、本書と一部異なる画面及び文言になる場合があります。

2. 画面操作の基本

本レコーダーは、キーボードを使用せずに、マウスだけで操作を行います。
キーボード操作が必要な場合には ソフトウェアキーボードを使用します。
本章ではマウスの基本操作とソフトウェアキーボードの使用方法に関して簡単に説明します。

2.1. マウス操作

・基本の操作は下記の通りです。

左クリック	選択、決定
右クリック	キャンセル

2.2. ソフトウェアキーボード操作

1) パスワードなど文字入力が必要な場合

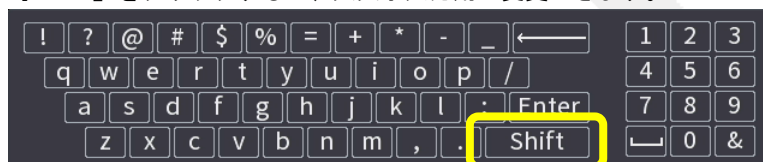


入力欄にマウスポインターを置き、左クリックするとソフトウェアキーボードが表示されます。



 は“スペース”、 は、“1 文字消去” です。

『Shift』をクリックすると、大文字入力用に変更できます。



2) マウスで文字及び数字を左クリックし文字列を入力し、最後に 『Enter』 をクリックし、入力を確定させます。

3) 時間や年など数字のみの入力が必要な場合は



入力欄にマウスポインターを置くと
テンキーだけのソフトウェアキーボードが表示されます。



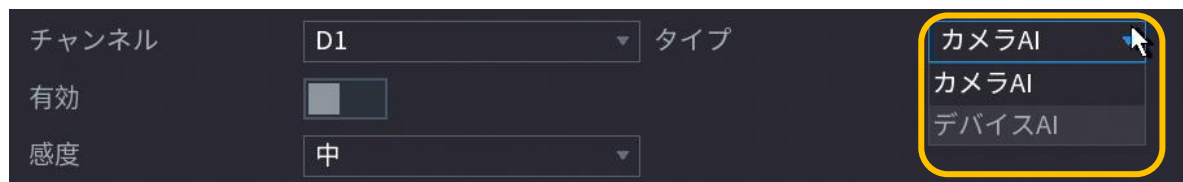
4) テンキーソフトウェアキーボードは Enter キーがないので
入力終了後、入力欄にマウスポインターを置き、左クリックで入力を確定させます。

3. AI 機能設定

以下の機能の設定手順を説明します。

機能		内容
AI 動体検知		動体検知と連動し、人物ならびに車両の動きを検知した際にイベントが発生します。
AI 境界検知	ライン検知	基準線を越えた際にイベントが発生します。
	エリア検知	基準領域線を越えた際にイベントが発生します。

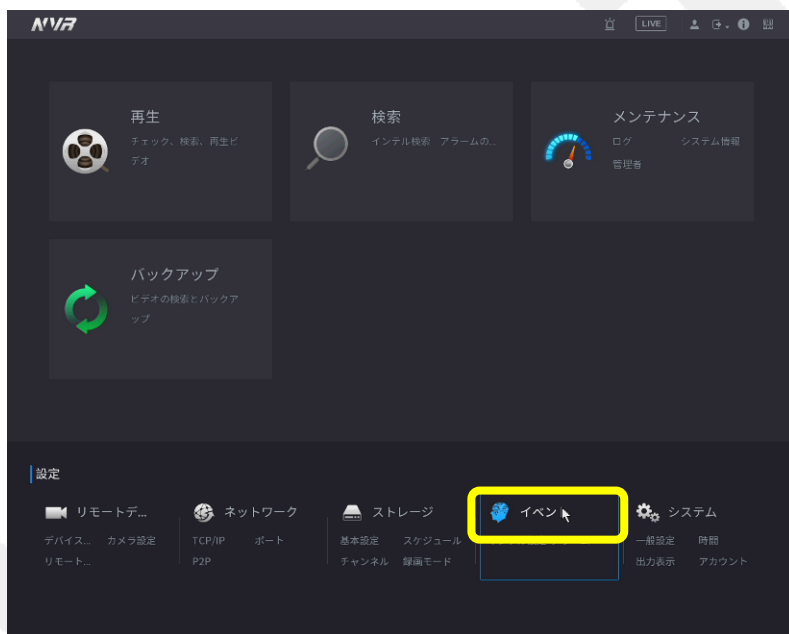
※AI 機能は、「カメラ AI」と「デバイス AI」の2つのタイプの設定があります。



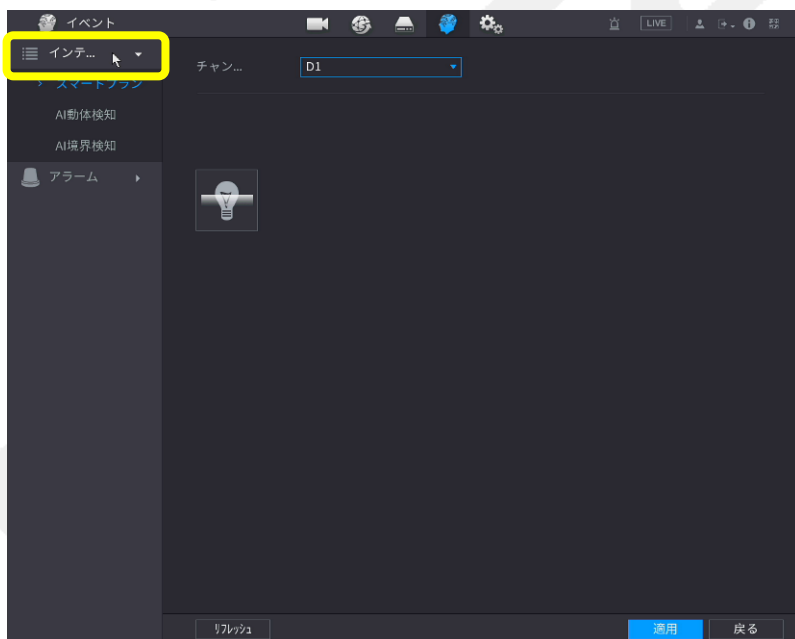
- ・ カメラ AI : カメラに搭載している AI 機能
- ・ デバイス AI : レコーダーに搭載している AI 機能

3.1. AI 機能画面

- 1) AI 機能の設定画面は、メインメニューの『イベント』をクリックして下さい。



- 2) イベント画面が表示するので、左にあるリストから、『インテル設定』をクリックし、インテル設定のリストを表示させます。



※イベントのアイコンの内にある『インテル設定』をクリックし、インテル設定画面を表示することも可能です。



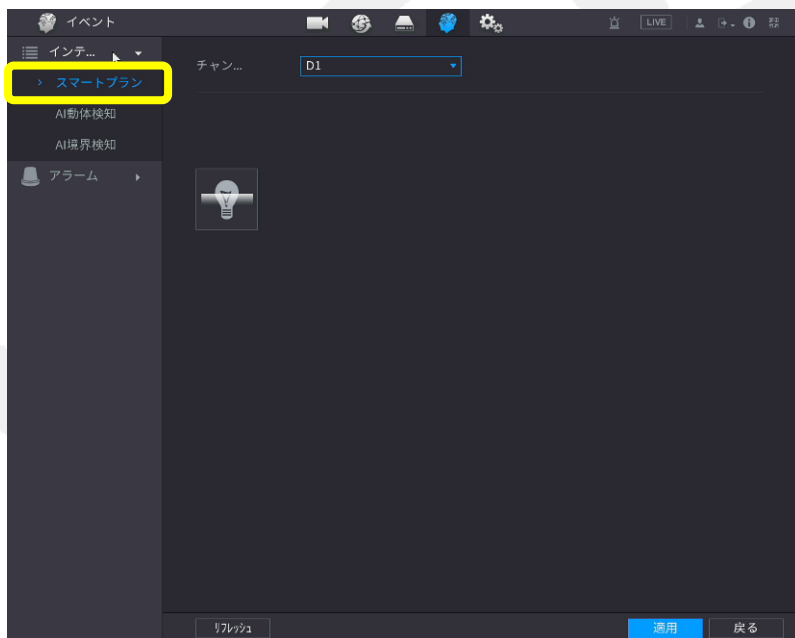
3.2. スマートプラン

カメラの AI 機能を使用する場合、スマートプランで設定した AI 境界検知が有効になります。

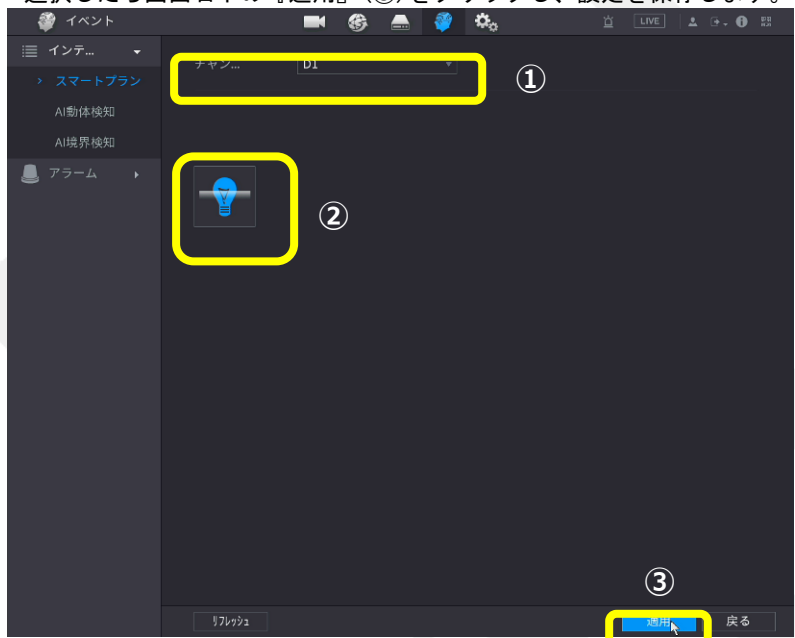
※ スマートプランを設定しないと、AI 境界検知の設定項目を有効にしても、AI 境界検知は動作しませんのでご注意ください。但し、AI 動体検知はスマートプランの設定はありません。AI 境界検知と併用が可能です。

※ レコーダーの AI 機能（デバイス AI）で AI 境界検知を使用する場合は、スマートプランの設定は不要です。

- 1) 左にあるインテル設定のリストから、『スマートプラン』をクリックして下さい。



- 2) [チャンネル]で設定したい映像のチャンネルをリストから選択 (①) し、AI 境界検知を使用するか選択 (②) します。選択したら画面右下の『適用』 (③) をクリックし、設定を保存します。



※ スマートプランは、選択するとアイコンが青色に変更し、もう一度、クリックすると選択は解除され、アイコンが白色に変更します。

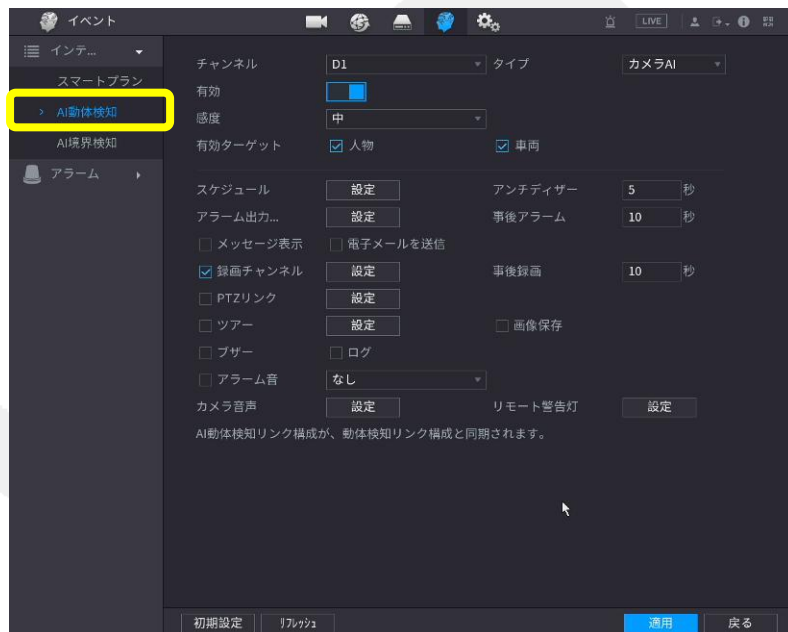


3.3. AI 動体検知

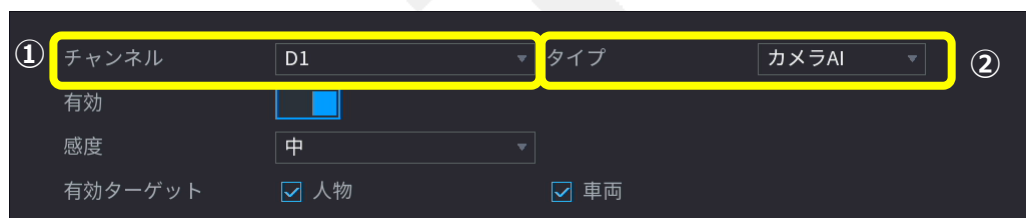
AI 動体検知は、動体検知で検出した対象から人物/車両のみを検出します。

※ AI 動体検知のトリガーの項目を設定すると、動体検知の項目も設定されます。

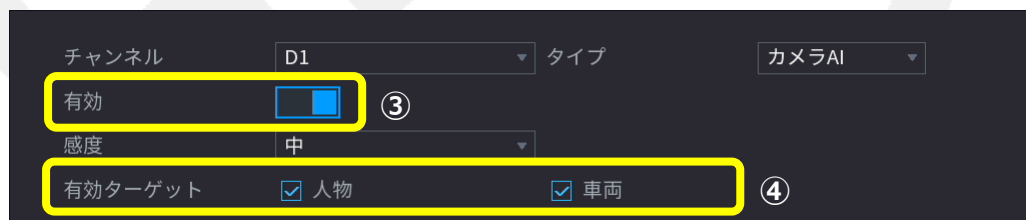
- 1) 左にあるインテル設定のリストから、『AI 動体検知』をクリックして下さい。



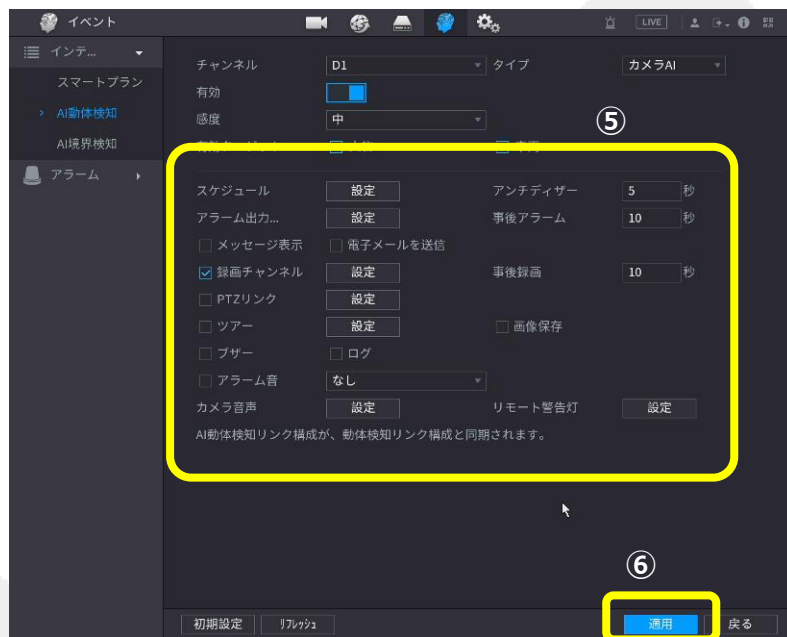
- 2) AI 動体検知機能を使用するチャンネルをリストから選択 (①) し、タイプのリストから「カメラ AI」/「デバイス AI」を選択 (②) します。



- 3) 『有効』(③) を有効 (右ヘスライド : 青色に変更) にし、有効ターゲットで検出する対象にチェック (④) を入れます。



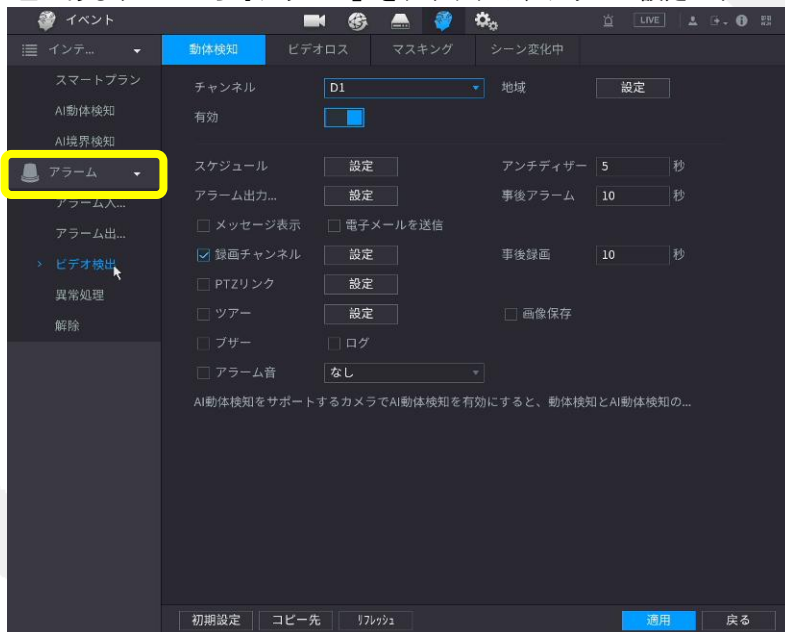
- 4) イベント発生時のレコーダーの動作 (⑤) を設定し、設定が終了したら、『適用』(⑥) をクリックで設定を保存します。



3.3.1. 動体検知設定

人や物などの全ての動作の変化を検知する機能です。

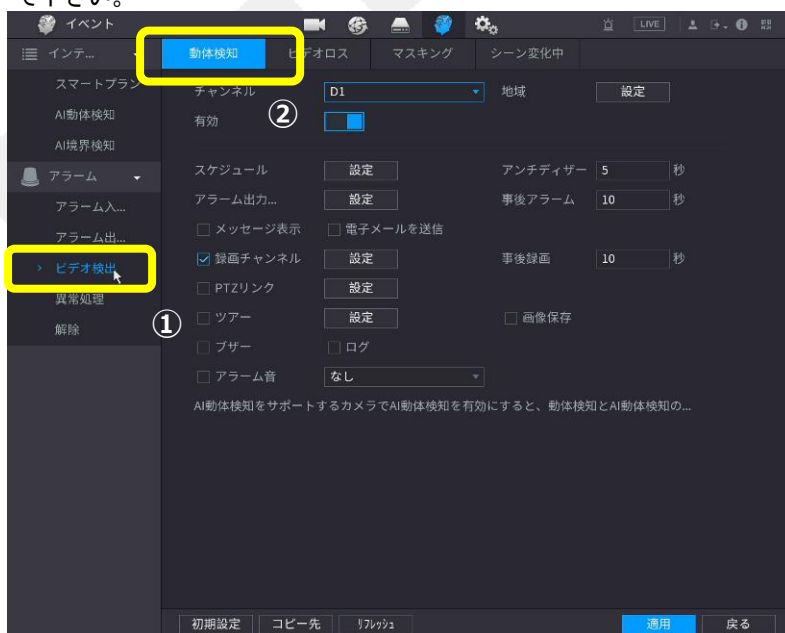
- 1) 左にあるリストから『アラーム』をクリックし、アラーム設定のリストを表示させます。



※イベントのアイコンの内にある『アラーム』をクリックすると、アラーム設定画面を表示することも可能です。



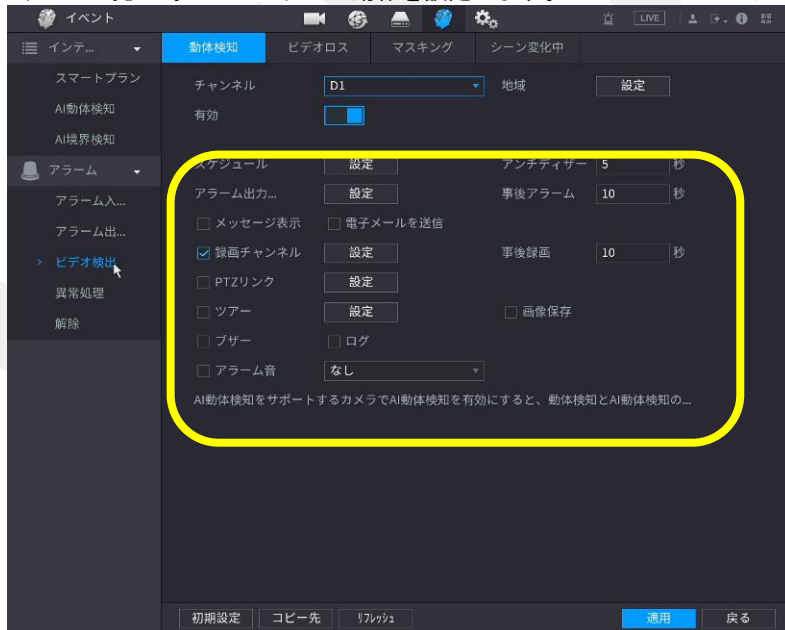
- 2) 左にあるアラームのリストから、『ビデオ検出』(①)をクリックし、上にある『動体検知』(②)のタブをクリックして下さい。



- 3) 動体検知を設定したいチャンネルをリストから選択 (③) し、『有効』を有効 (右ヘスライド: 青色に変更) (④) にします。

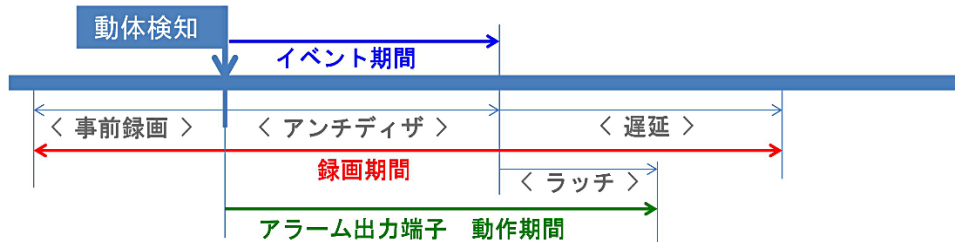


- 4) イベント発生時のレコーダーの動作を設定します。



[イベント期間]

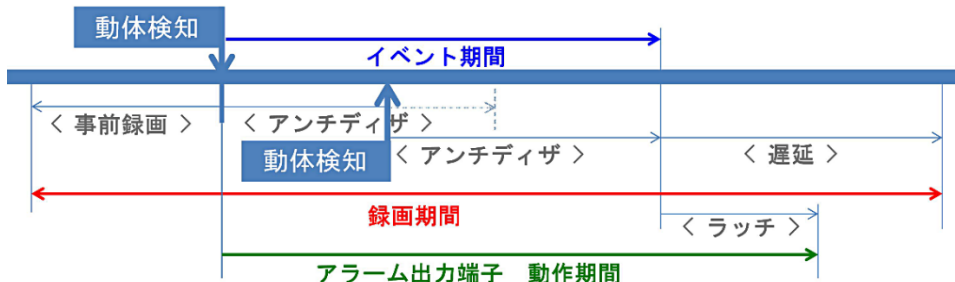
動体を検知して、“ブザーを鳴らす”、“アラーム出力を制御する”などの期間は“イベント期間”、“アラーム出力端子動作期間”の長さで決まります。各期間の概念は下図の通りです。



「動体検知」の場合、イベント発生時に“Email 送信”、“メッセージ表示”を行います。

“ブザーを鳴らす”“画面にアイコンを表示する”期間は『アンチディザ』で設定し、アラーム出力端子を動作させる期間は、『アンチディザ』と『ラッチ』(事後アラーム)で設定します。

- ※ 『アンチディザ』期間中に再び動体検知がされると、下図のように新たなイベントは発生せず最初の動体検知のイベント期間が延長されます。この場合、新たなイベントが発生しないため、“Email 送信” “メッセージ表示”が行われません。『アンチディザ』の設定にはご注意ください。

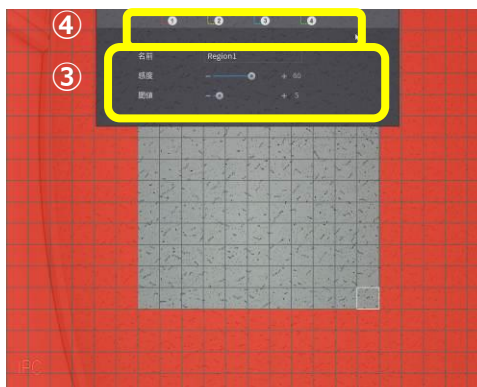
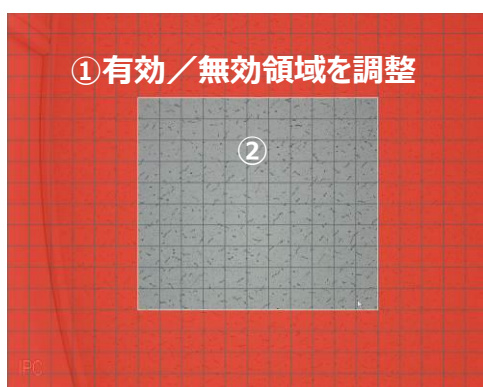


[領域設定]

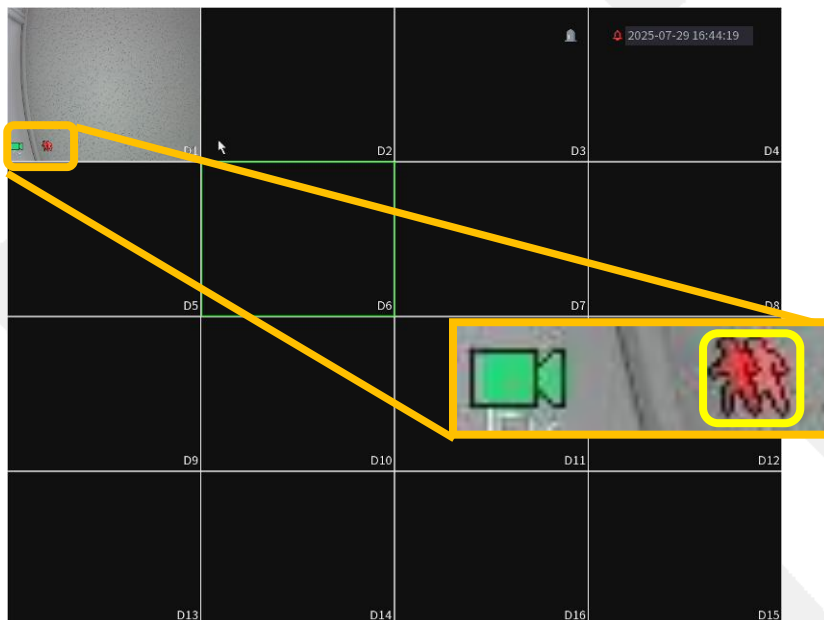
チャンネル	D1	地域	設定
有効	☒		
スケジュール	設定	アンチディザ	5 秒
アラーム出力...	設定	事後アラーム	10 秒

赤の領域が有効範囲で、映像が表示されている領域は無効領域です。

- ① マウスをドラッグすると 白色の選択枠（ブロック単位）が表示されます。ドラッグしながらブロック領域調整し、所望の範囲になった時点でドラッグを停止すると、有効／無効の範囲を変更することができます。
- ② 右クリックで領域設定画面を消去することができます。
※ 但し、動体検知画面で『保存』をクリックすることで変更設定が有効になります。
- ③ 「感度」から動体検知の感度を設定します。数値が高くなるほど感度は上がります。
- ④ 異なる「感度」や「閾値」の領域を最大4つまで設定することが可能です。



- 5) 動体検知が発生すると、映像の左下に動体検知のアイコン  が表示されます。動体検知が終了するとアイコンが消えます。



※  の動体検知のアイコンのみを非表示にする事はできません。

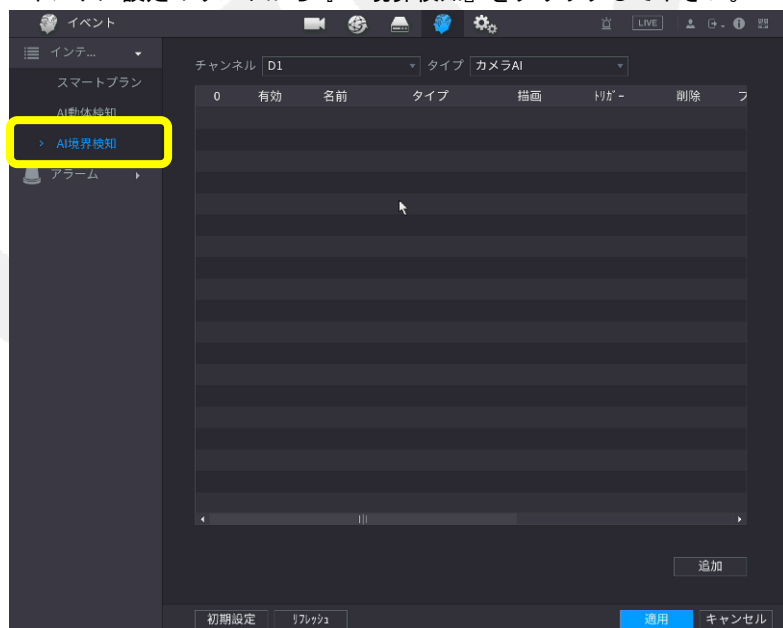
3.4. AI 境界検知

以下の機能の設定について説明します。

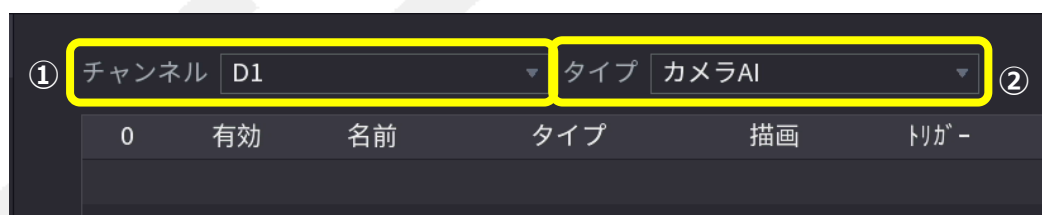
機能	内容	設定可能なデバイス
ライン検知	基準線を越えた際にイベントを発生	カメラ AI / デバイス AI
エリア検知	基準領域線を越えた際にイベントを発生	カメラ AI / デバイス AI

※カメラの AI 機能を使用する場合、スマートプランにて IVS が選択されていない場合は、IVS 機能は動作しないのでご注意ください。スマートプランの設定は、「3.2 スマートプラン」を参照して下さい。尚、レコーダーの AI 機能（デバイス AI）を使用する場合、スマートプランは不要です。

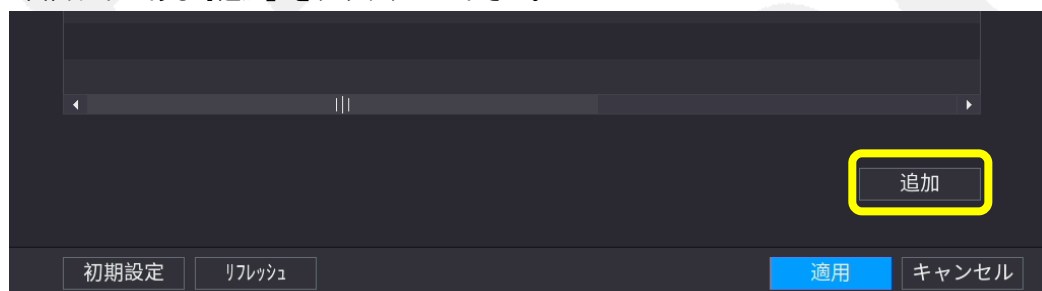
- 1) インテル設定のリストから『AI 境界検知』をクリックして下さい。



- 2) AI 境界検知機能を使用するチャンネルをリストから選択 (①) し、タイプのリストから「カメラ AI」/「デバイス AI」を選択 (②) します。



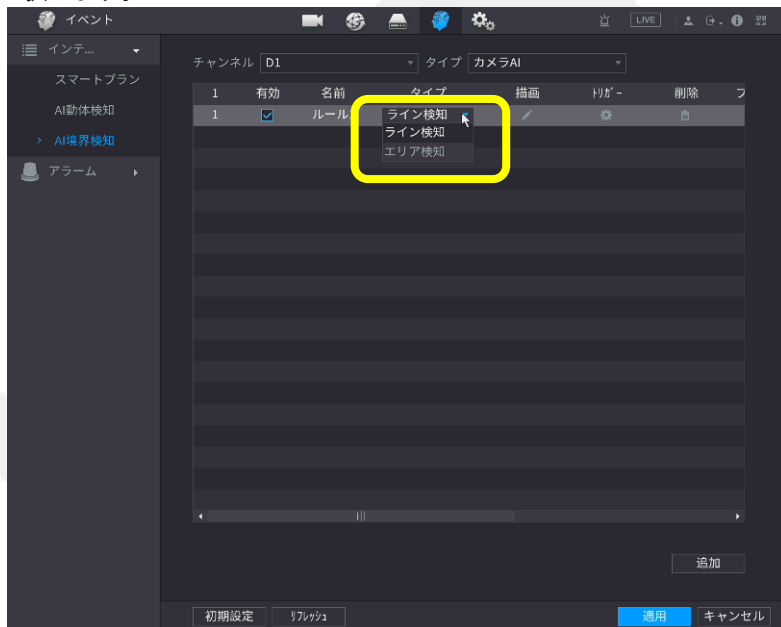
- 3) 画面右下にある『追加』をクリックして下さい。



※デフォルトで IVS のリストが表示している場合は、「削除」の  アイコンをクリックし、削除して下さい。

1	有効	名前	タイプ	描画	トリガ -	削除
1	☐	全画面表示	侵入検知			

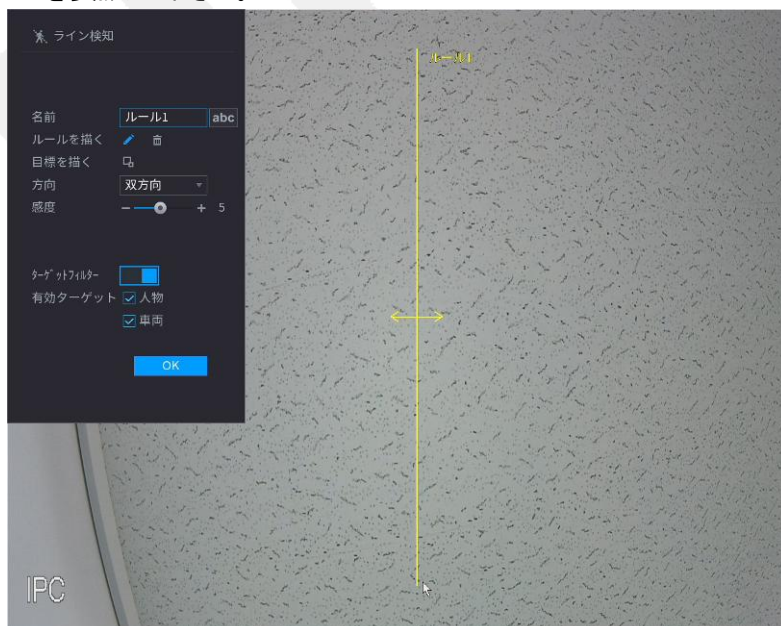
- 4) AI 境界検知のリストが追加されるので、「タイプ」のリストをクリックし、「ライン検知」または「エリア検知」を選択します。



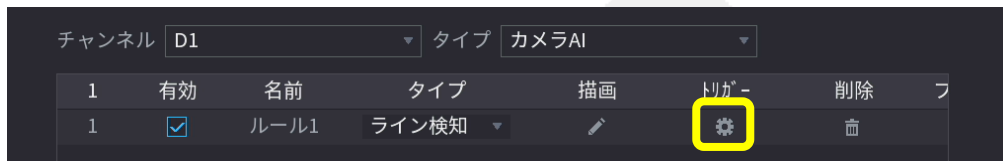
- 5) 「描画」の  アイコンをクリックし、AI 境界検知の基準線の描画面を表示させます。

1	有効	名前	タイプ	描画	トリガ -	削除
1	☒	ルール1	ライン検知			

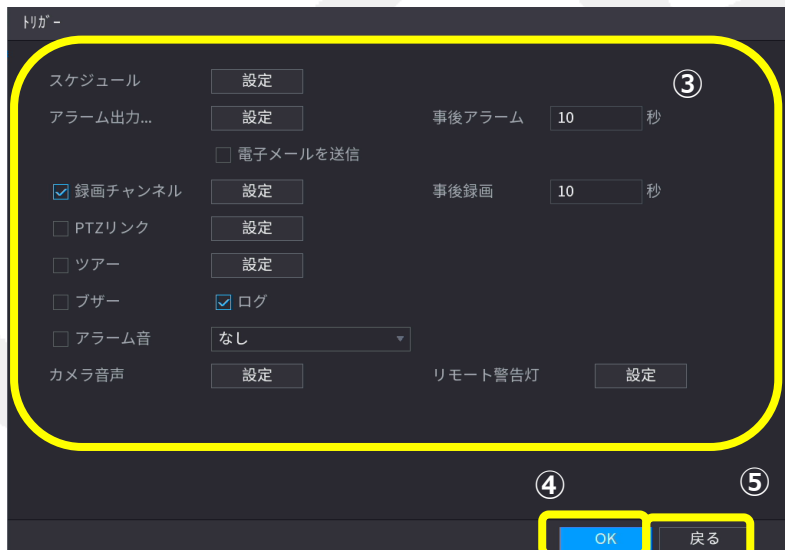
- 6) ライブ映像が表示している描画面に切り替わるので、AI 境界検知の基準線を描画します。
※下図はライン検知の設定画像です。描画の詳細は、「3. 4. 1. ライン検知設定手順」または「3. 4. 2. エリア検知手順」を参照して下さい。



- 7) 「トリガー」の  アイコンをクリックし、トリガー設定画面を表示させます。

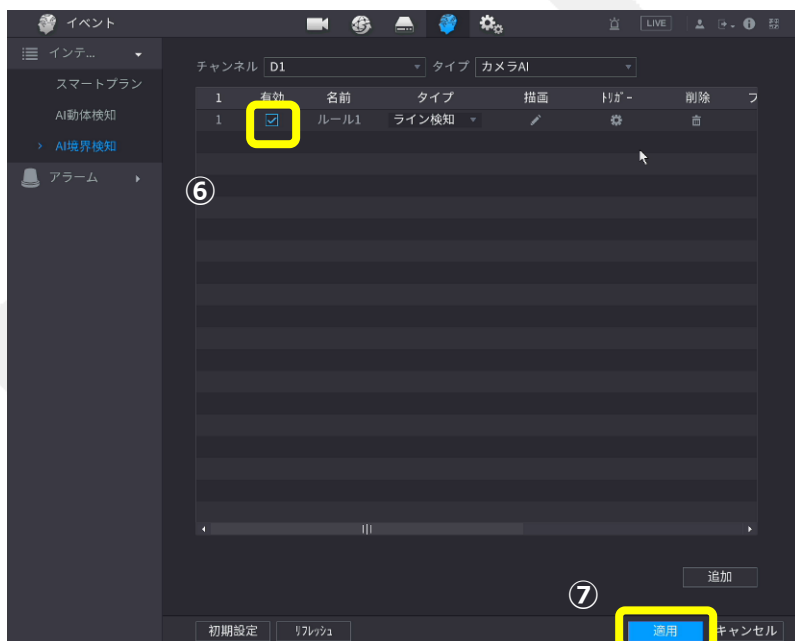


- 8) イベント発生時のレコーダーの動作 (③) を設定し、設定が終了したら、『OK』(④) をクリックで設定を保存し、『戻る』(⑤) で AI 境界検知設定画面に戻ります。



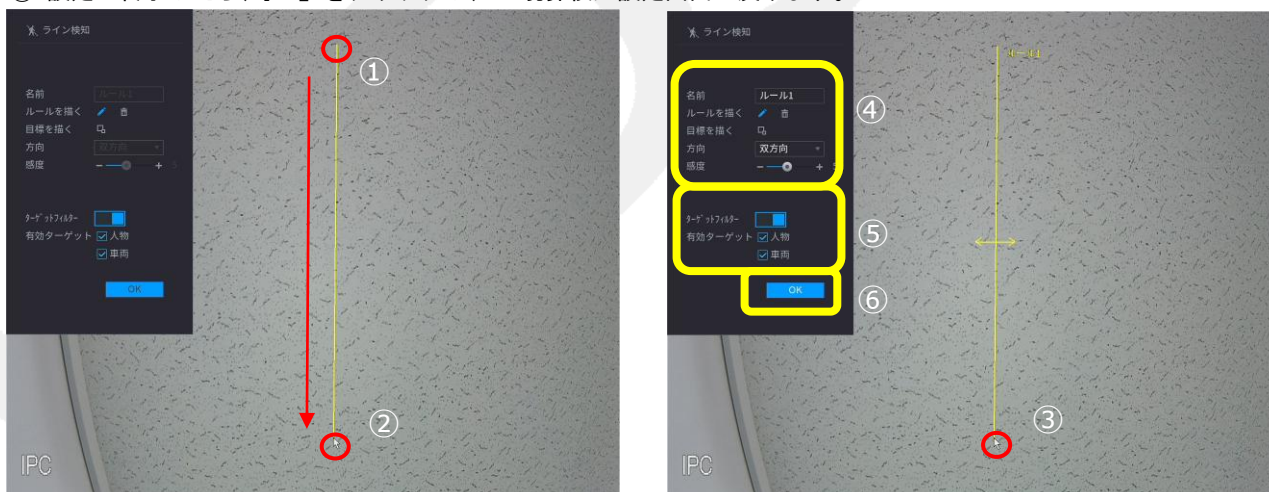
※イベントトリガーの詳細は、『9.2 イベントトリガー』を参照して下さい。

- 9) AI 境界検知機能を使用するリストの『有効』(⑥) に  を入れ、『適用』(⑦) をクリックして下さい。



3.4.1. ライン検知設定手順

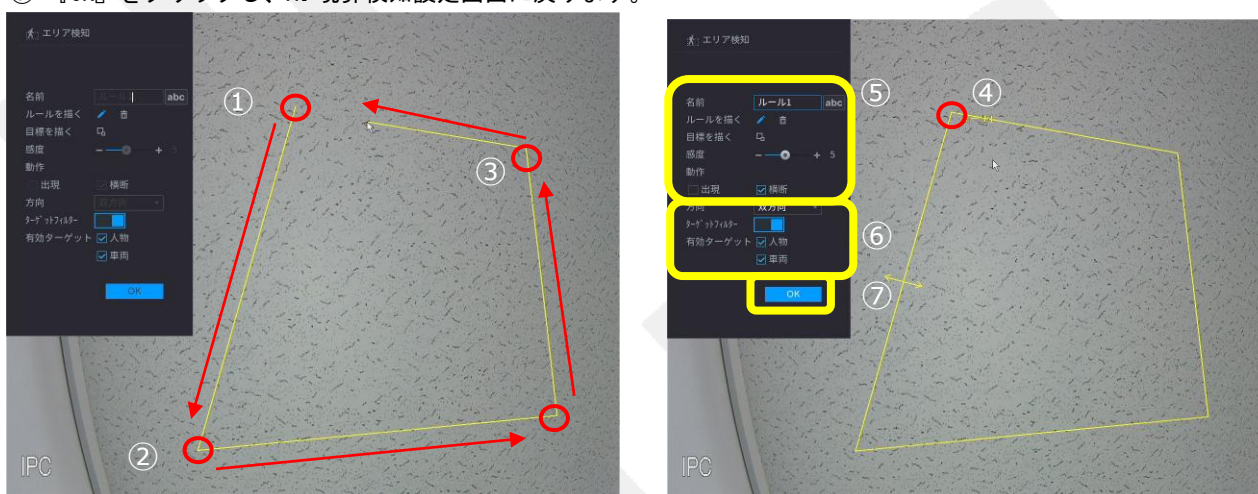
- ① マウスをクリックすると、基準線の始点が設定されます。
- ② マウスを移動させると黄色い線が引かれるので、設定する位置でマウスを移動させて再度クリックして下さい。
- ③ 基準線が決定したら、マウスを右クリックして下さい。
- ④ 「ルール名」(任意)を入力し、「方向」でトリップワイヤーの方向を設定します。
- ⑤ 有効ターゲットで、人物や車両を検知する場合は、「人物」または「車両」に☒を入れて下さい。人物/車両以外も検知させる場合は、「ターゲットフィルター」を無効(右ヘスライド: 灰色に変更) ☐にして下さい。
- ⑥ 設定が終了したら、『OK』をクリックし、AI 境界検知設定画面に戻ります。



※「OK」をクリック後に、AI 境界検知の設定画面にて、『適用』をクリックしないとライン検知の設定は保存されません。

3.4.2. エリア検知設定手順

- ① マウスをクリックすると、基準線の始点が設定されます。
- ② マウスを移動させると黄色い線が引かれるので、領域の角にする位置にマウスを移動させてクリックして下さい。
- ③ ②を繰り返し、矩形を描画します。
- ④ 始点に戻ったら、マウスを右クリックし、始点と終点を結びます。
- ⑤ 「ルール名」(任意)を入力し「動作」で矩形への動作を指定し、「方向」で侵入検知の方向を設定します。
- ⑥ 有効ターゲットで、人物や車両を検知する場合は、「人物」または「車両」に☒を入れて下さい。人物/車両以外も検知させる場合は、「ターゲットフィルター」を無効(右ヘスライド: 灰色に変更) ☐にして下さい。
- ⑦ 『OK』をクリックし、AI 境界検知設定画面に戻ります。



※「OK」をクリック後に、AI 境界検知の設定画面にて、『適用』をクリックしないとエリア検知の設定は保存されません。

4. イベント検索

以下のイベントの検索手順を説明します。

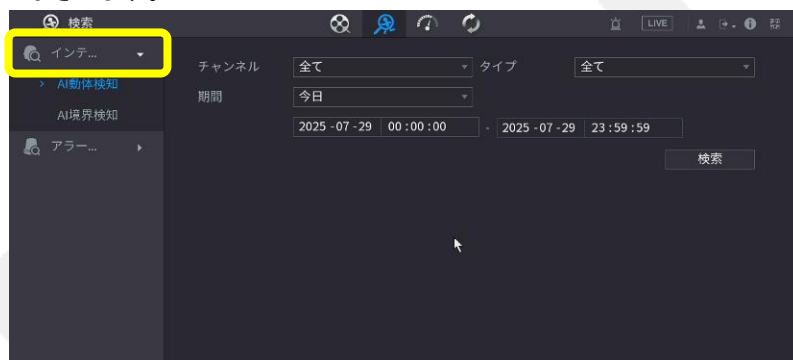
検索項目		検索結果
インテル検索	AI 動体検知	イベント発生時の動画
	AI 境界検知	

4.1. インテル検索

- 1) メインメニューの『検索』をクリックして下さい。



- 2) イベント検索画面が表示するので、左にあるリストから、『インテル検索』をクリックし、インテル検索のリストを表示させます。

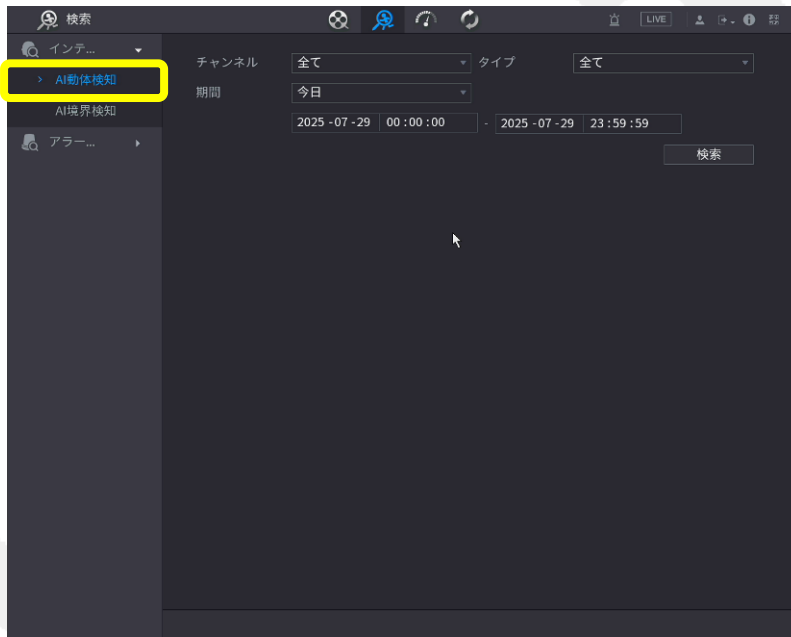


※検索のアイコンの内にある『インテル検索』をクリックすると、インテル検索画面を表示することも可能です。

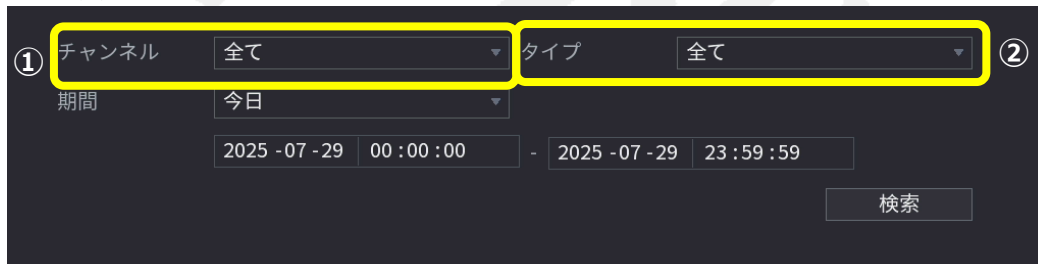


4.1.1. AI 動体検知検索

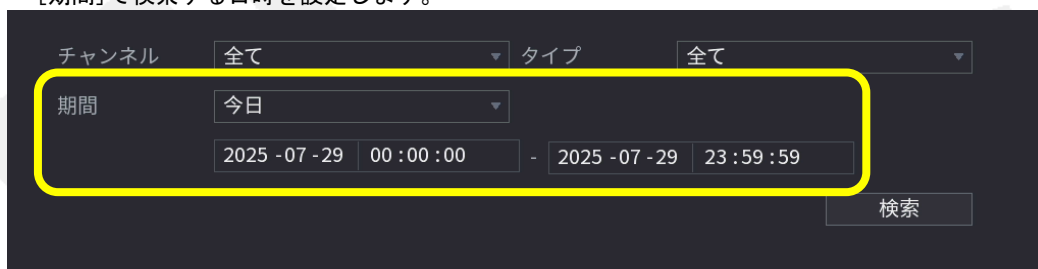
- 1) 左にあるインテル検索のリストから、『AI 動体検知』をクリックして下さい。



- 2) 右の[チャンネル]で設定したい映像のチャンネルをリストから選択(①)し、[タイプ]で検索するタイプを選択(②)します。



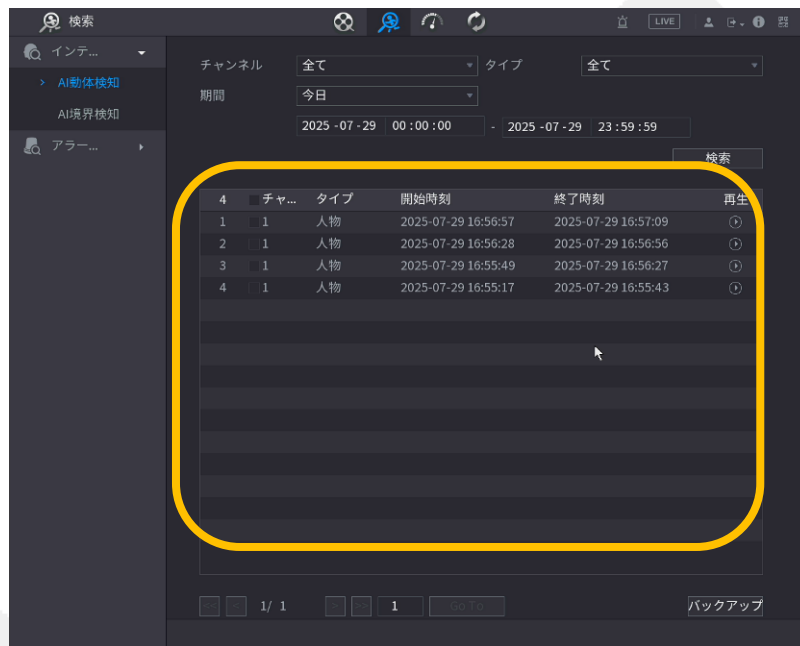
- 3) [期間]で検索する日時を設定します。



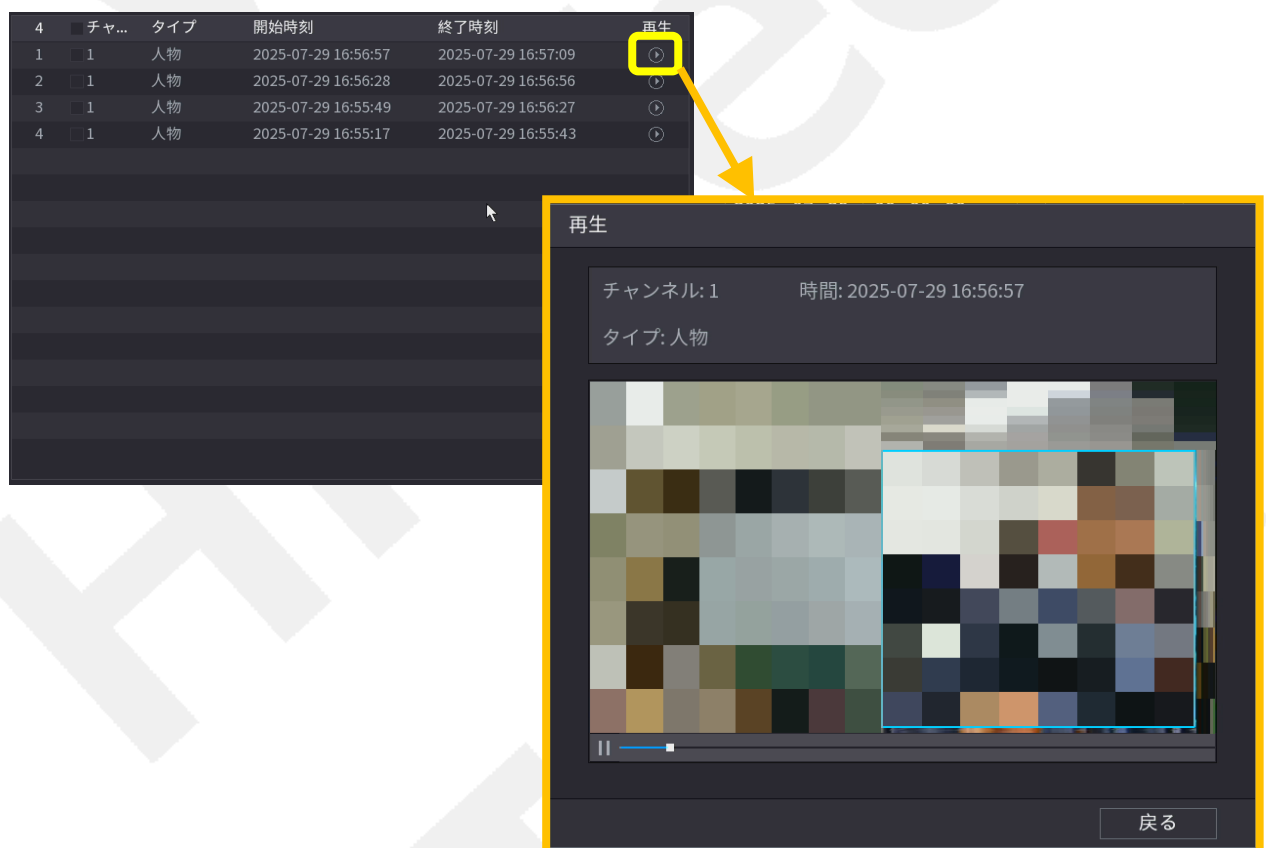
- 4) 条件の設定が終了したら、『検索』をクリックして下さい。



- 5) 検索結果が表示されます。

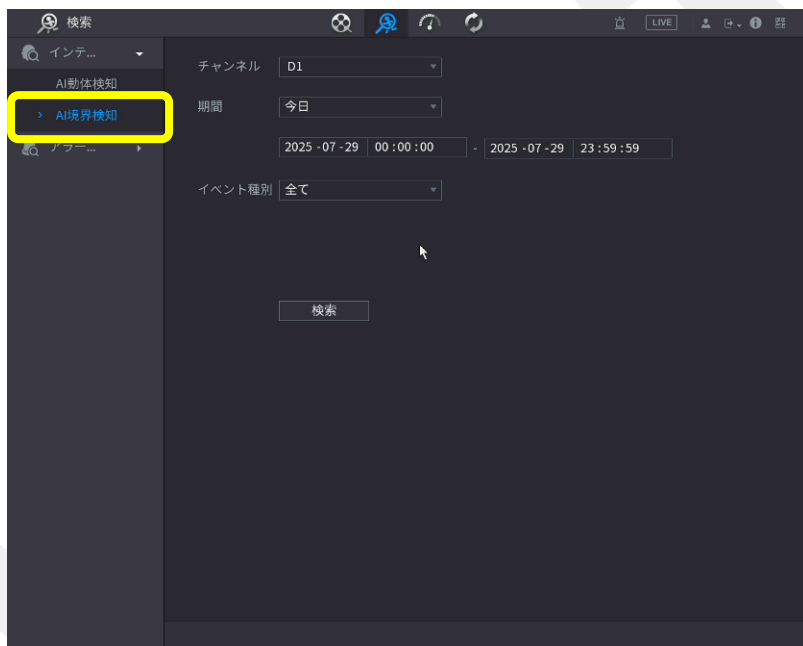


- 6) 「再生」の▶をクリックすると、イベント発生時の録画映像が再生します。

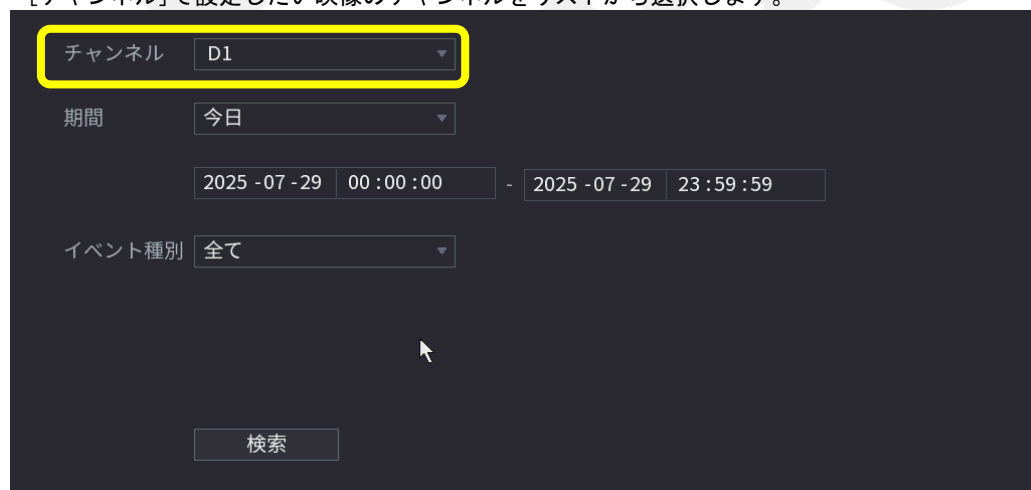


4.1.2. AI 境界検知検索

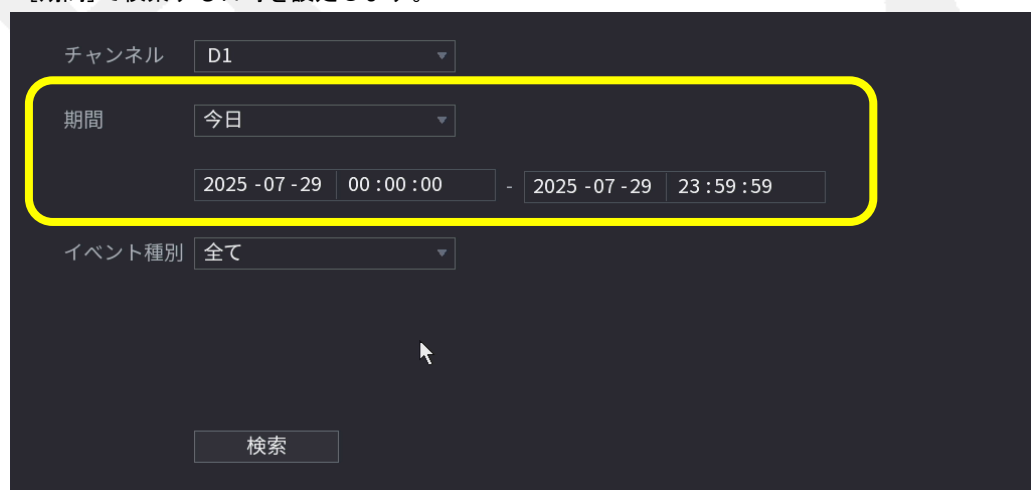
- 1) 左にあるインテル検索のリストから、『AI 境界検知』をクリックして下さい。



- 2) [チャンネル]で設定したい映像のチャンネルをリストから選択します。



- 3) [期間]で検索する日時を設定します。



- 4) 「イベント種別」にて、検索する AI 境界検知の種類を選択します。

The screenshot shows a search interface with the following elements:

- チャンネル: D1
- 期間: 今日
- Time range: 2025 - 07 - 29 00 : 00 : 00 - 2025 - 07 - 29 23 : 59 : 59
- イベント種別: A dropdown menu is open, showing the following options: 全て, ライン検知, エリア検知, 置き去り, 高速移動, 駐車検知, 群集検知, 紛失物品, 滞留検出, クロス仮想フェンス.

※「有効ターゲット」の項目が表示されます。検索するターゲットにチェックを入れて下さい。

The screenshot shows the search interface with the following elements:

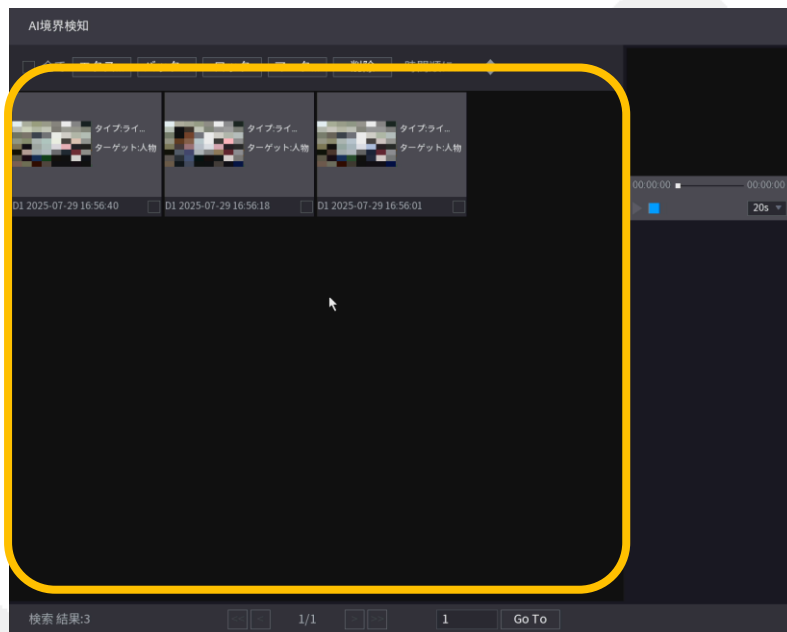
- イベント種別: エリア検知
- 有効ターゲット: A section with a yellow border containing the following checked items: ☒ 有効ターゲット, ☒ 人物, ☒ 車両, ☒ 自転車, ☒ 動物.

- 5) 条件の設定が終了したら、『検索』をクリックして下さい。

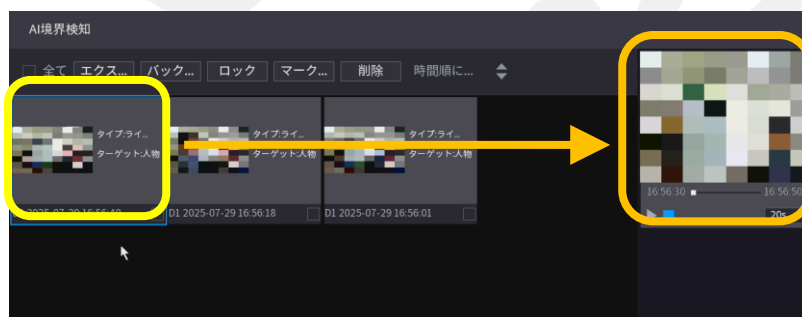
The screenshot shows the search interface with the following elements:

- チャンネル: D1
- 期間: 今日
- Time range: 2025 - 07 - 29 00 : 00 : 00 - 2025 - 07 - 29 23 : 59 : 59
- イベント種別: 全て
- 検索: A button with a yellow border.

- 7) 指定した日時の AI 境界検知のイベントの結果が表示されます。

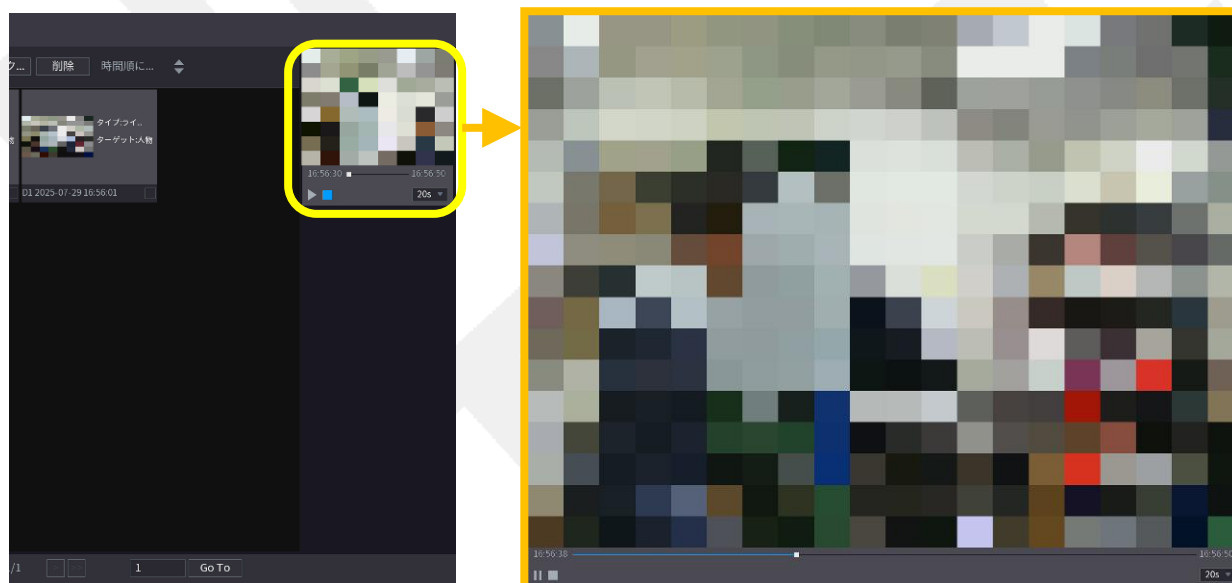


- 8) 表示された検索結果の画像をクリックすると、右上にイベント発生時の録画映像が表示されるので、再生ボタンをクリックし再生します。



※検索結果のサムネイルをダブルクリックした場合、再生状態で右上に映像が表示されます。

- 9) 右上の再生映像をダブルクリックすると、1 画面再生に切り替わります。



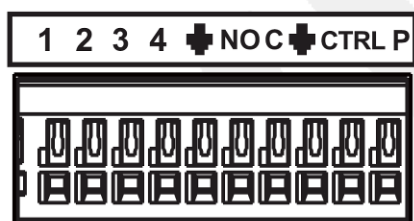
※1 画面から戻る場合は、右クリックをして下さい。

5. アラーム設定

アラームの機能の中で、「アラームの入力/出力」、「動体検知」ならびに「ログ」について説明します。

- ・ アラーム入出力はレコーダー背面に装備された灰色のコネクタの中に配置されています。
- ・ アラーム入出力端子には直接配線をします。
- ・ アラーム入力端子は、接地アラーム入力です。
ノーマルオープンまたはノーマルクローズタイプの2種類の設定が可能です。
※ デフォルトは、ノーマルオープン (NO) です。

《灰色のコネクタ例》



ポート	概要
1~4	アラーム入力ポート
⏏	GND（グラウンド）ポート
NO/C	アラーム出力ポート（アラーム出力番号 1）※ノーマルオープン
CTRL	アラーム出力ポート（アラーム出力番号 2）※ノーマルクローズ、12V の電源供給。
P	+12V（1A）の電源出力ポート。

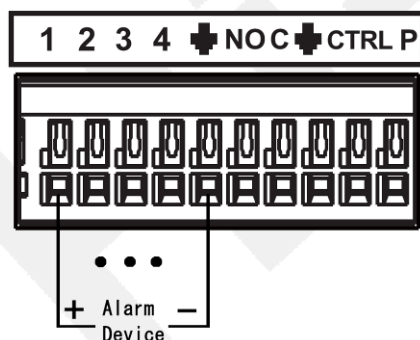
5.1. アラーム入力設定

アラーム入力の使用方法及びイベント設定を説明します。

5.1.1. アラーム入力使用方法

- ・ 下図のようにアラーム入力デバイスのプラス側 (+) をレコーダーのアラーム入力ポート（ALARM IN 1~4）に接続します。

アラーム入力デバイスのマイナス側 (-) を NVR の接地側 (⏏) に接続します。

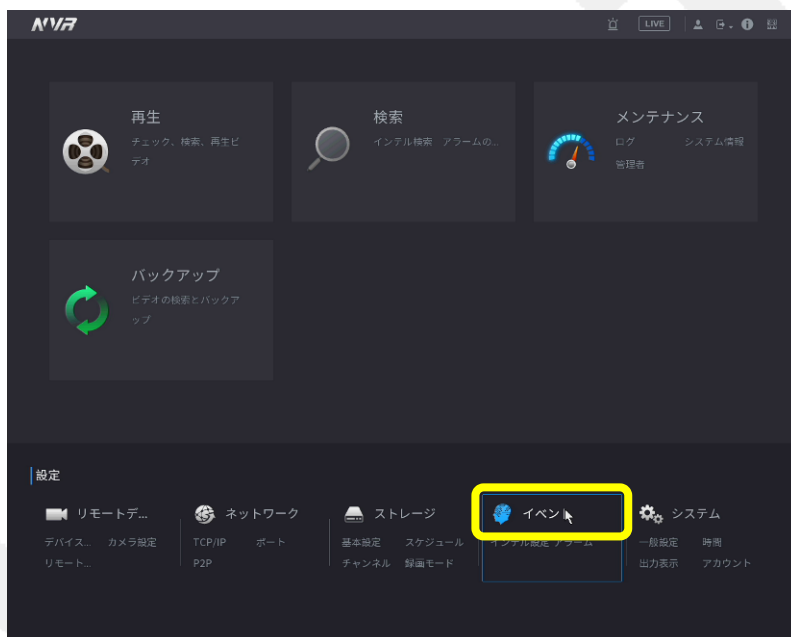


注記：

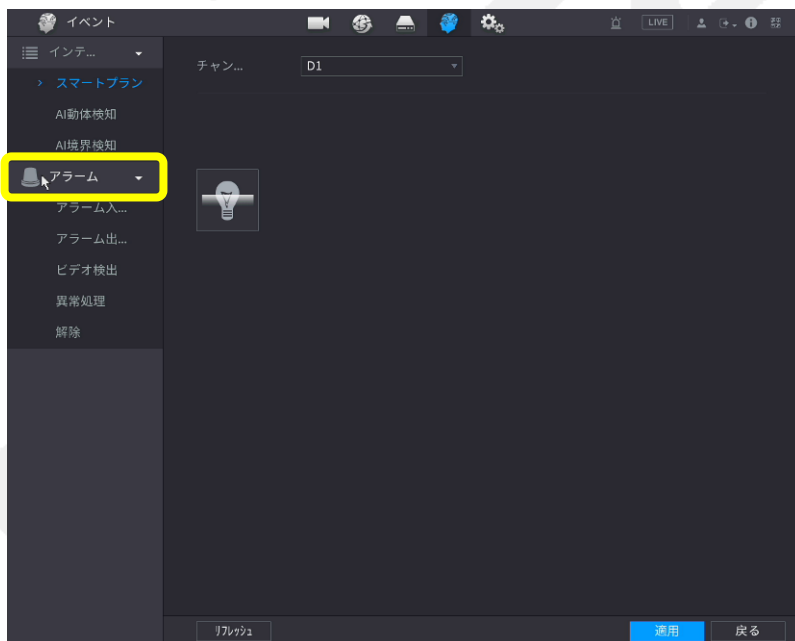
- ・ アラームデバイスの接地ポートをレコーダーに接続する際には、任意の GND ポート (⏏) を使用できます。
- ・ アラームデバイスの NC ポートをレコーダーのアラーム入力ポート（ALARM）に接続して下さい。
- ・ アラームデバイス用周辺電源がある場合、電源がレコーダーと共に接地されていることを確認して下さい。

5.1.2. アラーム入力設定

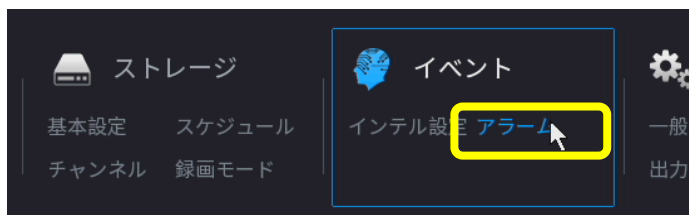
- 1) メインメニューの『イベント』をクリックして下さい。



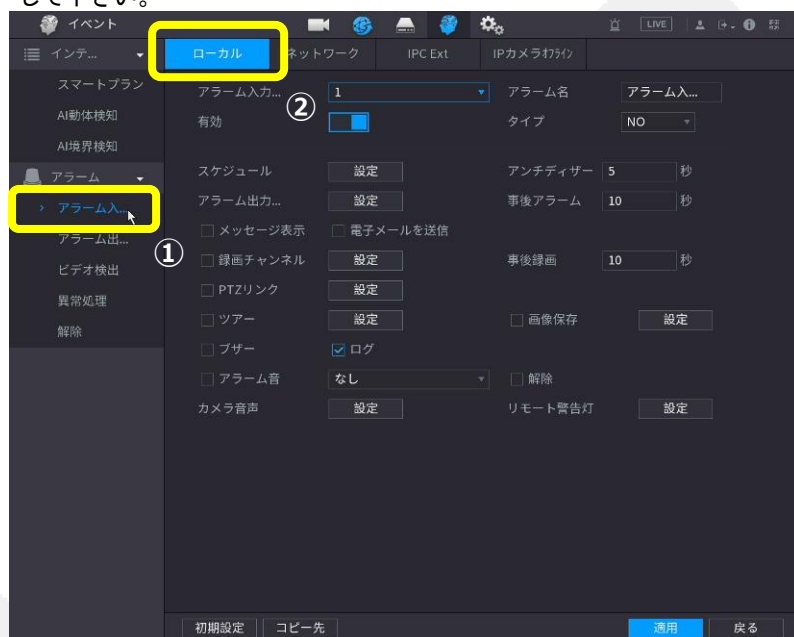
- 2) イベント画面が表示するので、左にあるリストから、『アラーム』をクリックし、アラーム設定のリストを表示させます。



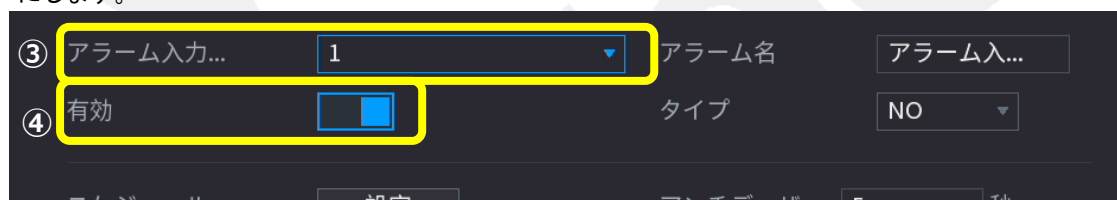
※イベントのアイコンの内にある『アラーム』をクリックすると、アラーム設定画面を表示することも可能です。



- 3) 左にあるアラームのリストから、『アラーム入力』(①)をクリックし、上にある『ローカル』(②)のタブをクリックして下さい。

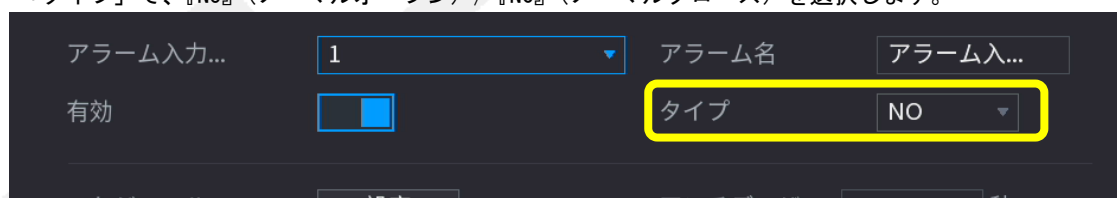


- 4) アラームの入力を行うアラーム入力チャンネルを選択(③)し、『有効』を有効(右ヘスライド: 青色に変更) (④)にします。

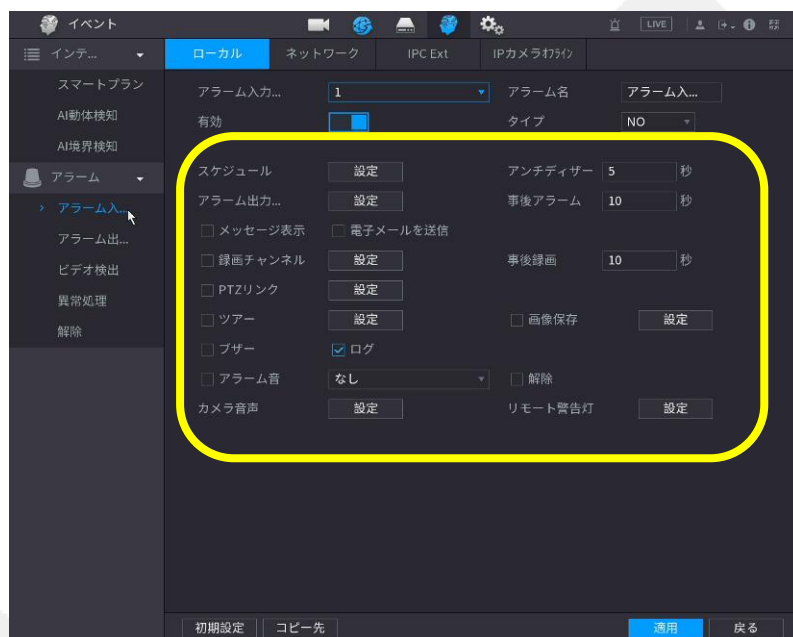


※ アラーム入力チャンネルは、映像出力チャンネルではありません。アラーム端子の入力のチャンネルです。

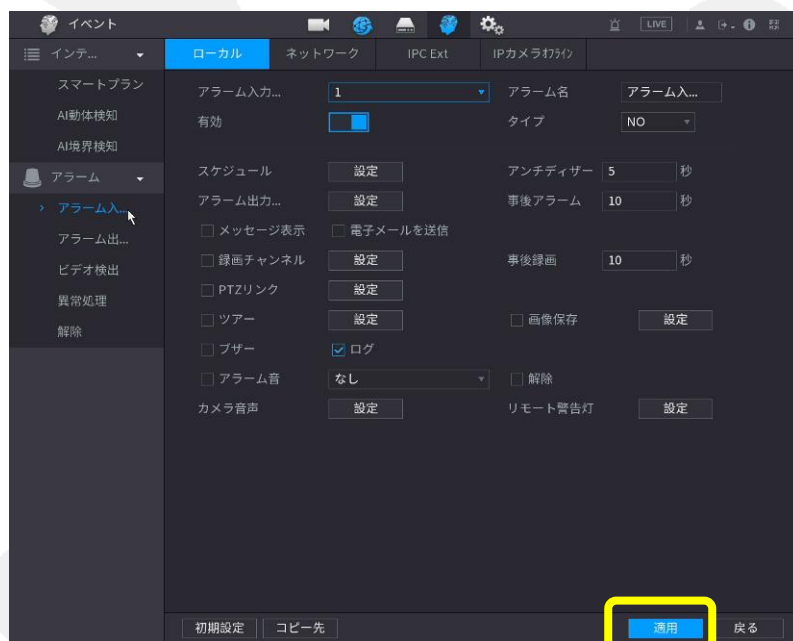
- 5) 「タイプ」で、『NO』(ノーマルオープン) / 『NC』(ノーマルクローズ)を選択します。



- 6) イベント発生時のレコーダーの動作を設定します。



- 7) 設定が終了したら、右下の『適用』をクリックして下さい。

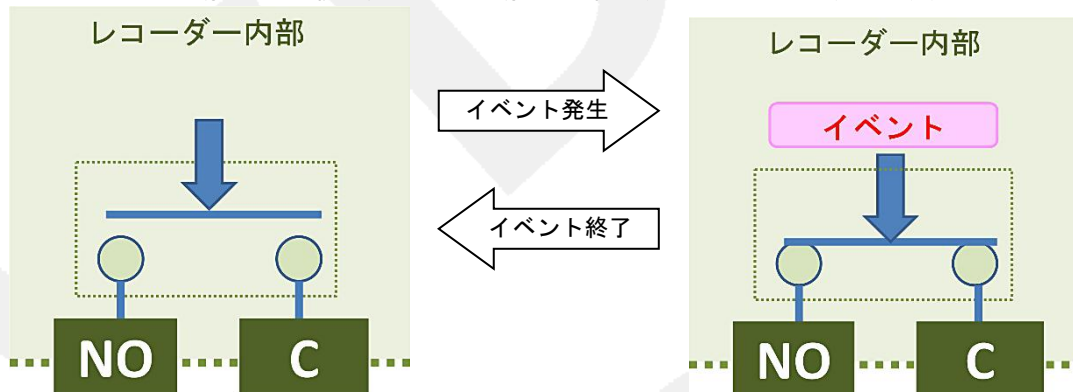


5.2. アラーム出力設定

「イベント」発生時に、背面のアラーム出力端子を使用する方法を記載します。

5.2.1. アラーム出力端子概念図

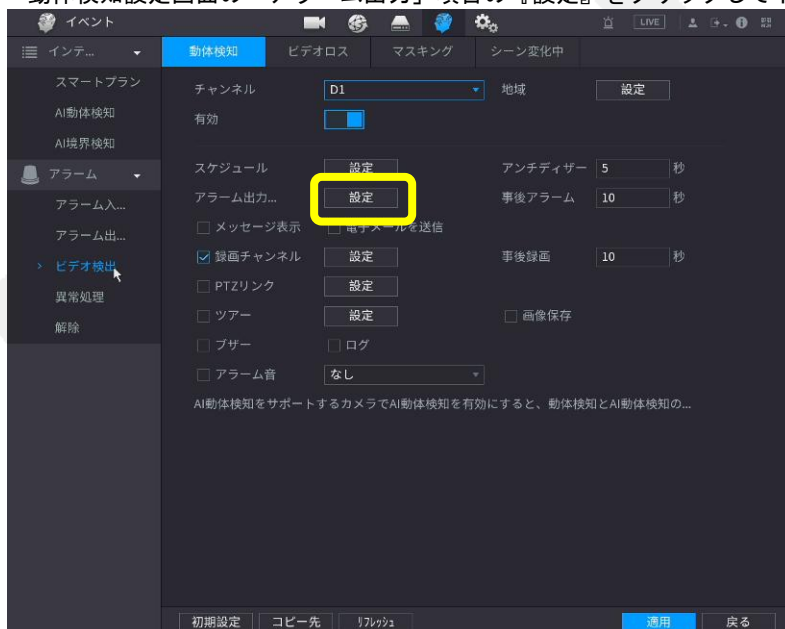
- アラーム出力は“無電源接点”で構成され、NO(ノーマルオープン)型では“イベント”が発生すると接点がオンとなり、“NO”端子と“C”端子が、ショートした状態になります。
また NC(ノーマルクローズ)型では“イベント”が発生すると接点がオフとなり、“NC”端子と“C”端子が、開放状態になります。以降は、NO 型を例にして説明します。
- 状態は“イベント期間”中継続し、“イベント期間”が終了すると元の状態に戻ります。



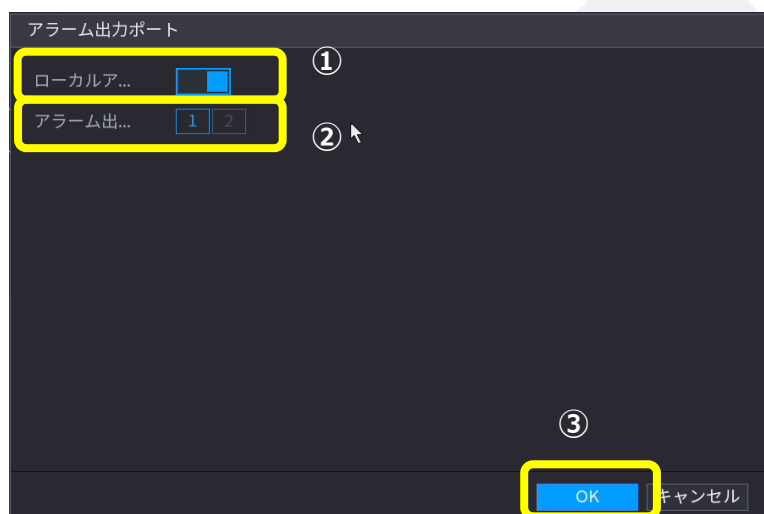
5.2.2. アラーム出力設定

ここでは動体検知発生時にアラーム出力を使用してイベント発生時にライトを点灯させる例を記載します。イベントによっては、一部異なる画面及び文言になる場合があります。

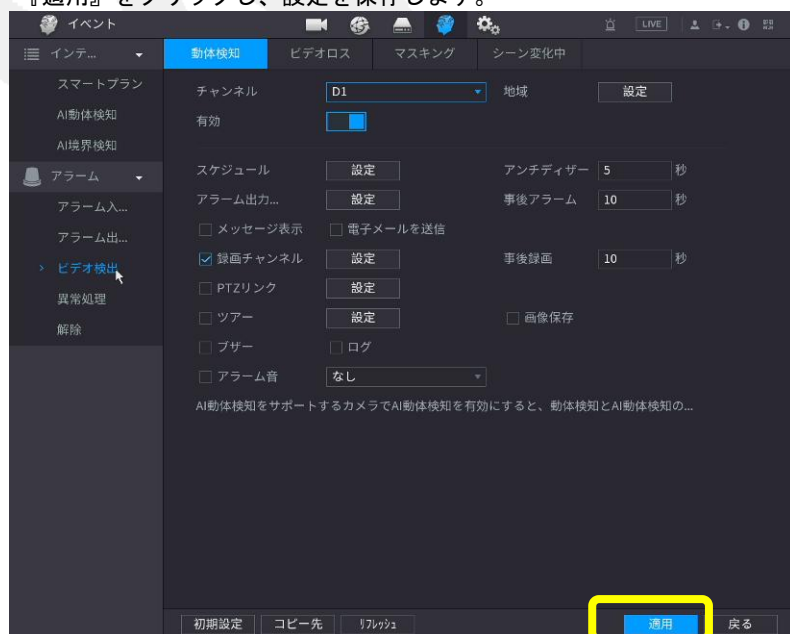
- 「3.3.1 動体検知設定」にて、動体検知を設定します。
- 動体検知設定画面の「アラーム出力」項目の『設定』をクリックして下さい。



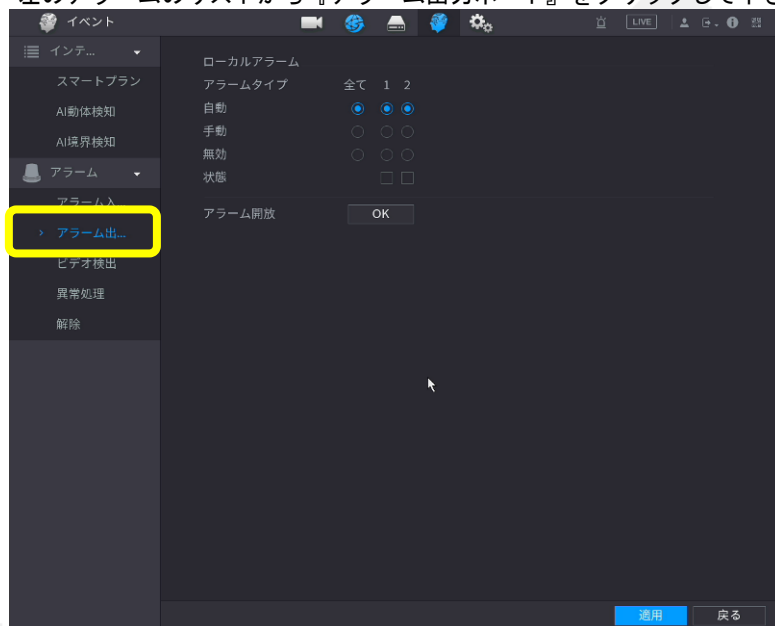
- 3) 『ローカルアラーム』(①)を有効(右ヘスライド:青色に変更)にし、使用するアラーム出力ポート(②)を選択します。設定が終了したら、『OK』(③)をクリックして下さい。



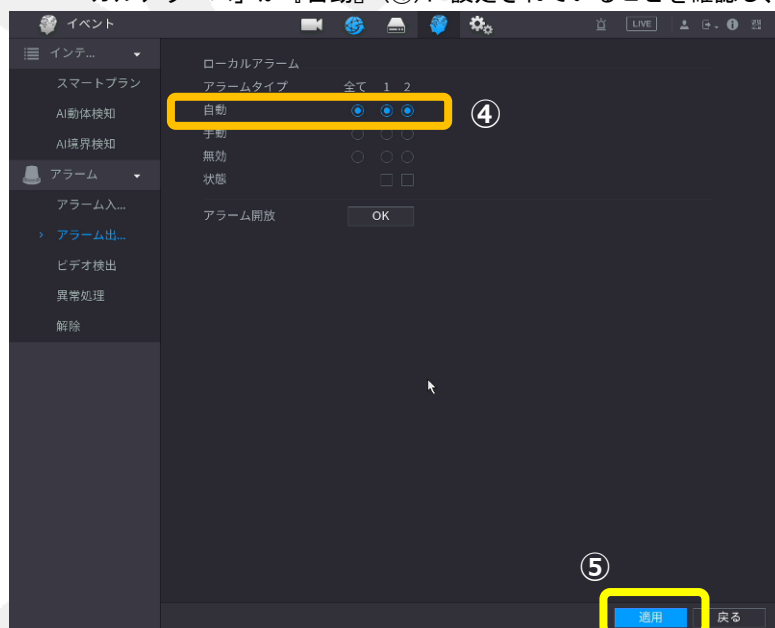
- 4) 『適用』をクリックし、設定を保存します。



- 5) 左のアラームのリストから『アラーム出力ポート』をクリックして下さい。

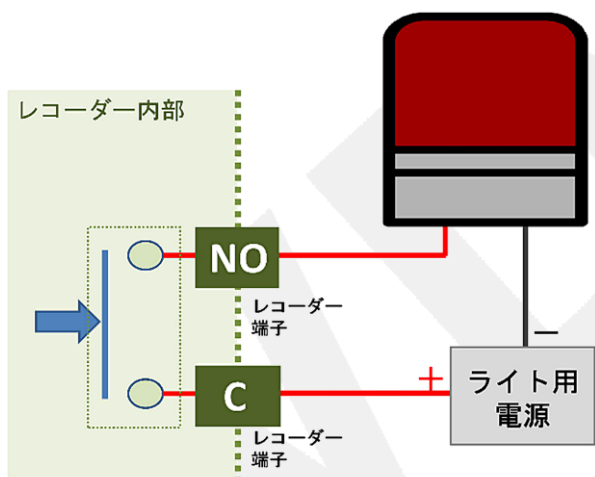


- 6) 「ローカルアラーム」が『自動』(④)に設定されていることを確認し、『適用』(⑤)をクリックして下さい。

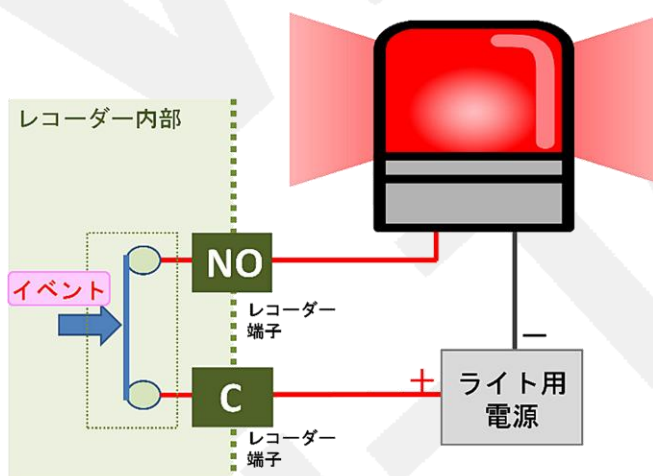


5.2.3. アラーム出力端子の使用例

- ・ 下図の様に、ライト用電源の+側をレコーダーの“C”端子に、ライトの+端子をレコーダーの“NO”端子にそれぞれ接続します。
- ・ ライトの-端子をライト用電源の-側と接続します。



- ・ イベントが発生すると接点がショートし、ライトの+端子とライト用電源の+側が接続され ライトが点灯します。



<注意>

- ・ リレーの損傷につながる恐れがある高電流を回避するため、アラーム出力ポートを高出力負荷に直接接続しないで下さい。（負荷は1A未満として下さい）
- ・ アラーム出力ポートと負荷の間には、共通の接触器を接続して下さい。

※ 端子仕様は補足の端子仕様を参照下さい。

6. ログ

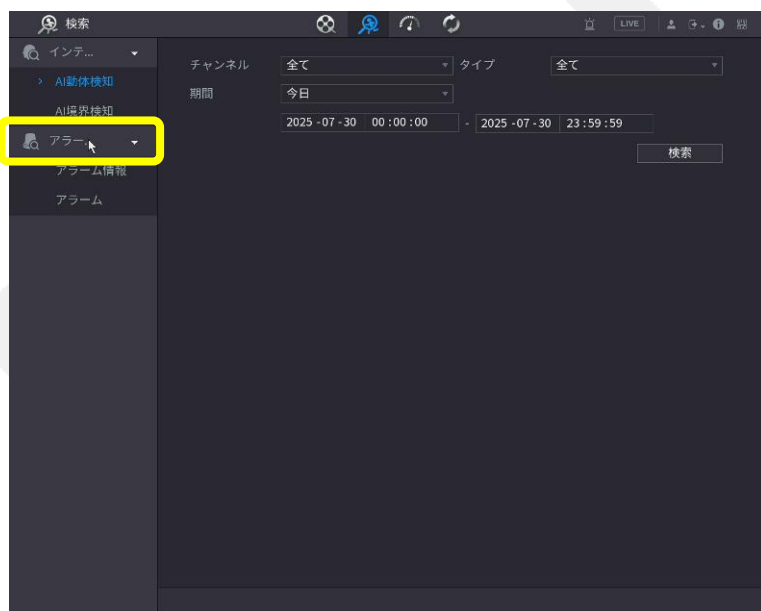
6.1. イベントのログ

アラーム入力（ローカルアラーム / IPC オフラインなど）、ディテクト（動体検知 / ビデオロス / マスキング / シーンチェンジ）、異常処理（ハードディスク / ネットワーク / ユーザーの異常）、インテリジェンス機能のイベントログは、すべて検索画面にある「アラーム情報」にて検索します。

- 1) メインメニューの『検索』をクリックして下さい。



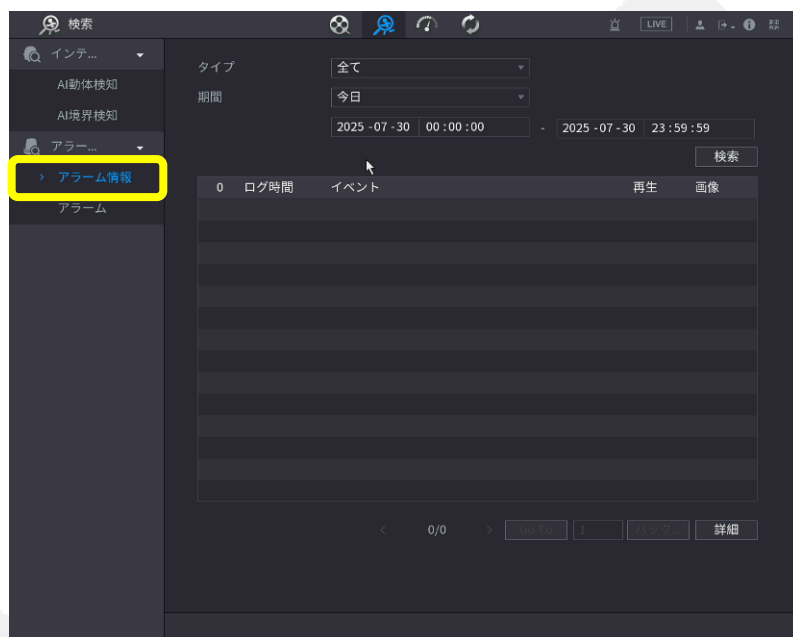
- 2) 検索画面が表示するので、左にあるリストから、『アラームの照会』をクリックし、アラームの照会のリストを表示させます。



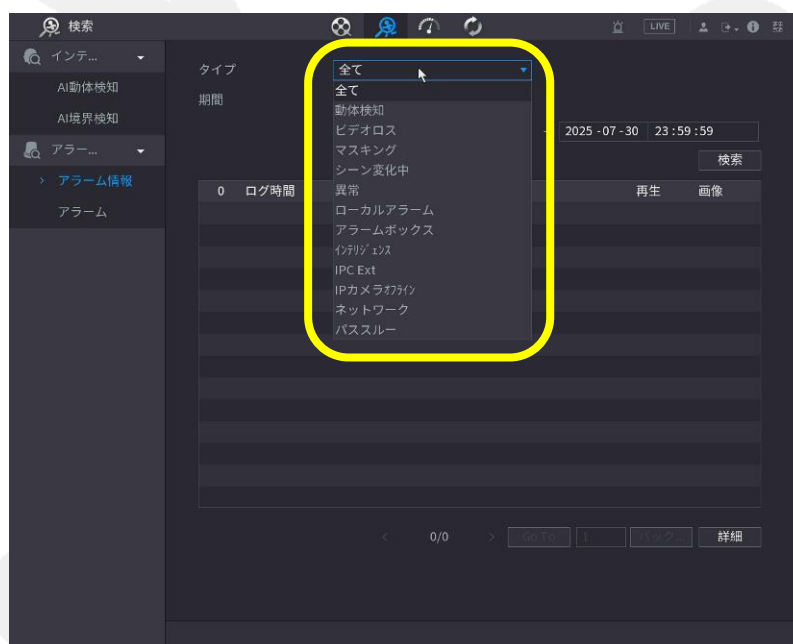
※検索のアイコンの内にある『アラームの照会』をクリックすると、アラームの照会の画面を表示することも可能です。



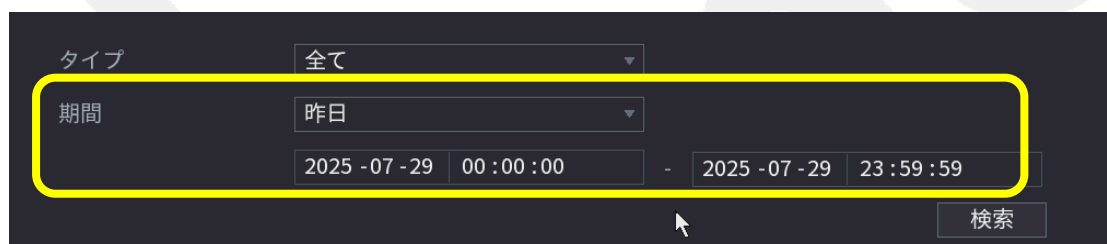
- 3) 左のリストから、『アラーム情報』をクリックして下さい。



- 4) 『タイプ』をクリックし、リストから検索するイベントを選択します。



- 5) 検索する『開始時間』と『終了時間』の日時を設定します。



- 6) 「タイプ」/「期間」の設定が終了したら、『検索』をクリックして下さい。

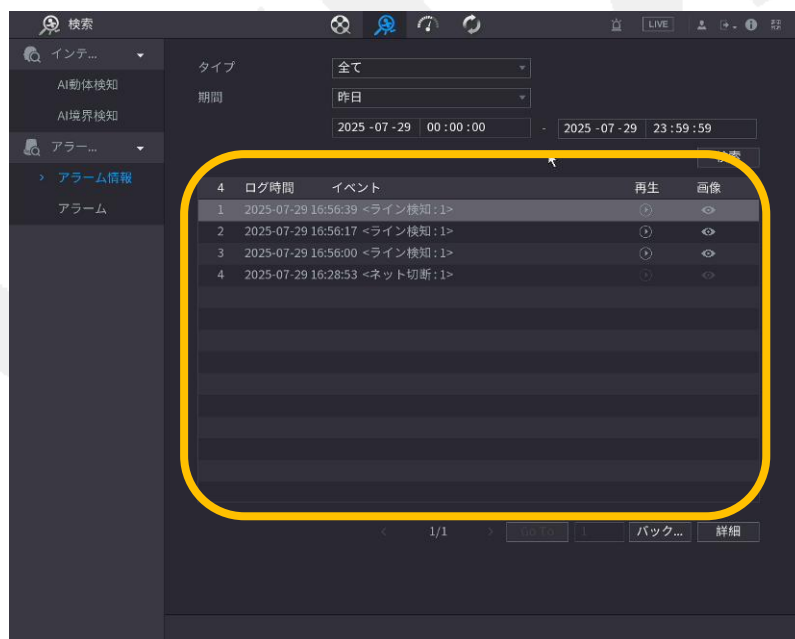
タイプ 全て

期間 昨日

2025-07-29 00:00:00 - 2025-07-29 23:59:59

検索

- 7) 検索結果が表示されます。



6.1.1. ログのバックアップ

- 1) 使用する USB メモリーをレコーダーに挿入し、USB デバイス画面が表示したら、右クリックで画面を消去します。



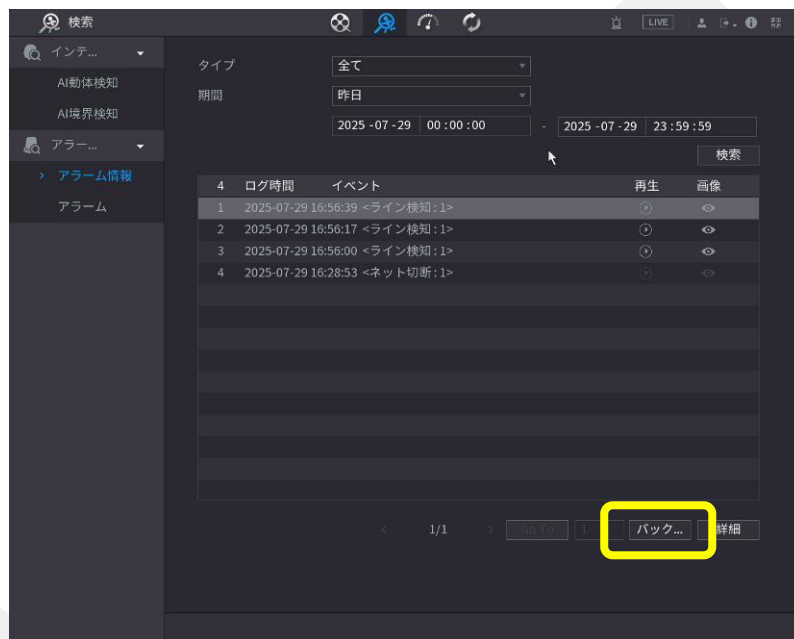
〈USB デバイス画面が表示されない場合〉

※USB メモリーの容量が大きいと、表示までに時間がかかる場合があります。

- ① USB メモリーを抜き挿しして下さい。
- ② 他の使用していない前面/背面の USB ポートに挿入して下さい。
- ③ 他の USB メモリーを挿入して下さい。

上記の確認でも画面が表示しない場合は、購入先にお問い合わせ下さい。

- 2) ログの検索結果画面の右下にある『バックアップ』をクリックして下さい。



- 3) バックアップ画面が表示されるので、ファイルにパスワードを設定するために、『バックアップ暗号化』(①) を有効 (右ヘスライド: 青色に変更)  にし、パスワード設定の欄にパスワードを入力します。

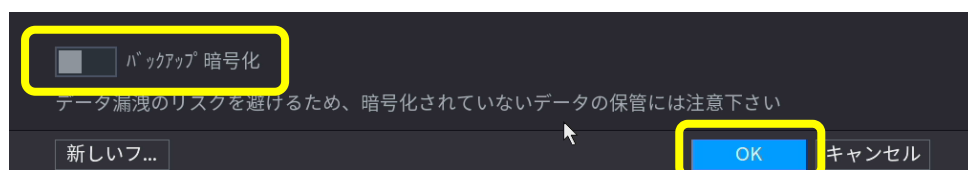


＜パスワード文字数＞

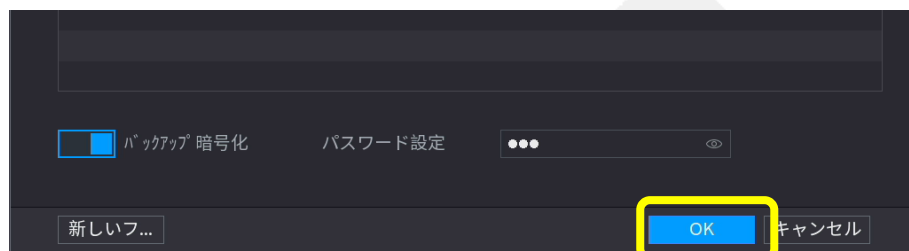
パスワードの文字数は、1文字～32文字までの英数字/記号で制限はありません。

＜ログファイルにパスワードを設定しない場合＞

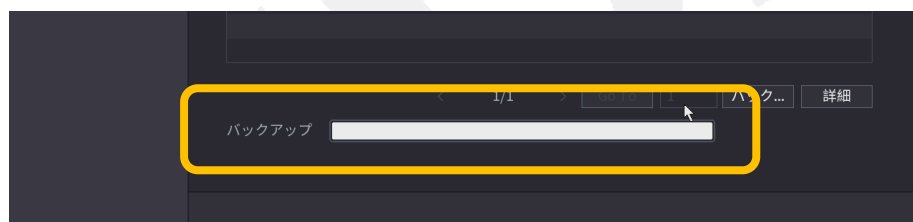
『バックアップ暗号化』を無効 (左ヘスライド: 灰色に変更)  し、右下の『OK』をクリックして下さい。



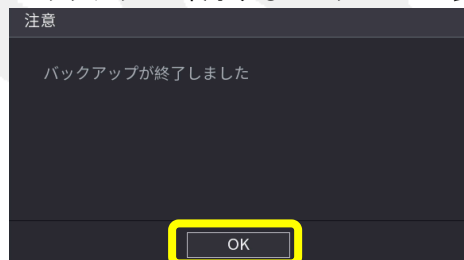
- 4) パスワードを入力したら、『OK』をクリックして下さい。



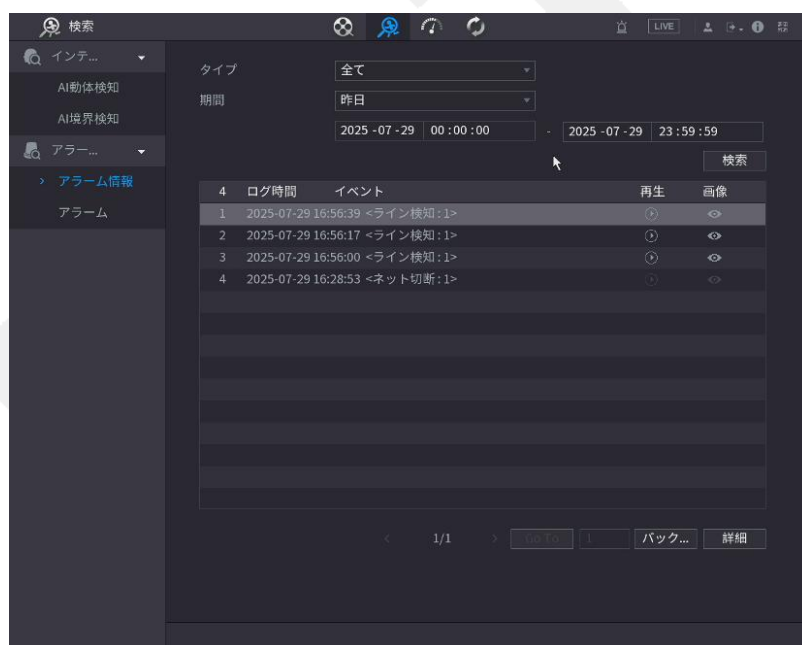
- 5) 画面下に進捗バーが表示されます。



- 6) バックアップが終了するとメッセージが表示されるので、『OK』をクリックして下さい。



- 7) ログ検索画面に戻り、終了です。



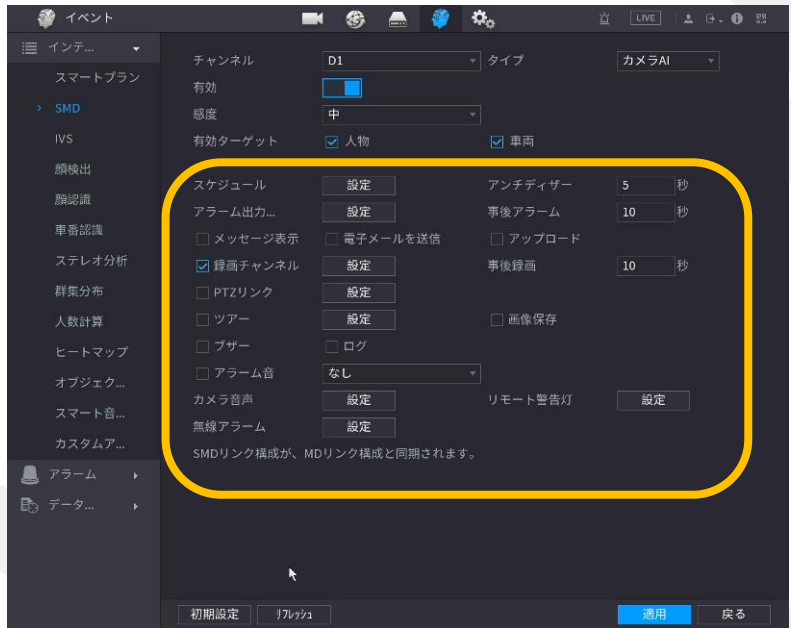
○USB メモリーに格納されるログファイル

フォルダ名	ファイル名
Log_YYYYMMDDhhmmss (※YYYYMMDD : 保存年月日、hhmmss : 保存時間)	・FileLog.csv (パスワードなしの場合) ・FileLog.zip (パスワードありの場合) ※zip ファイルの中は、” FileLog_ログ開始時間_ログの終了時間.csv” のログファイルが格納されています。

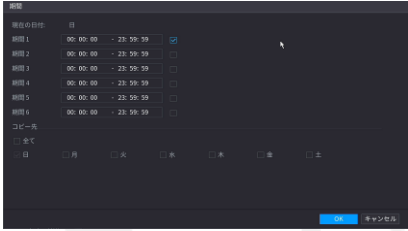
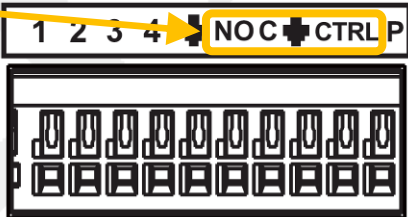
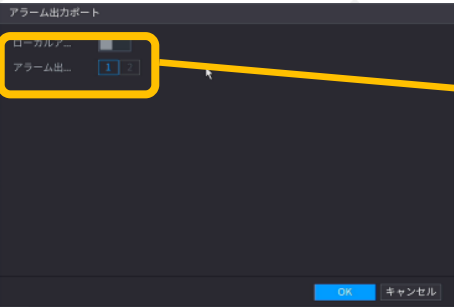
7. 備考

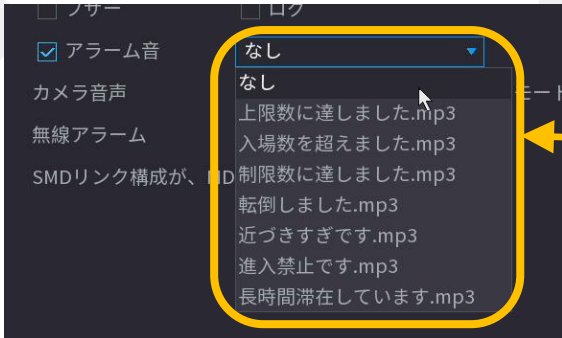
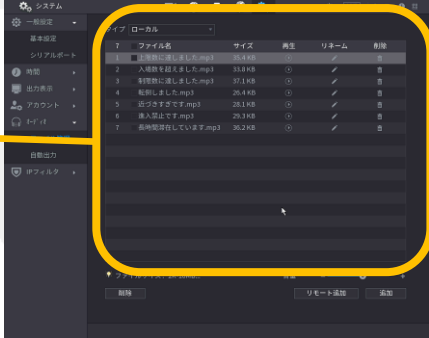
7.1. イベントトリガー

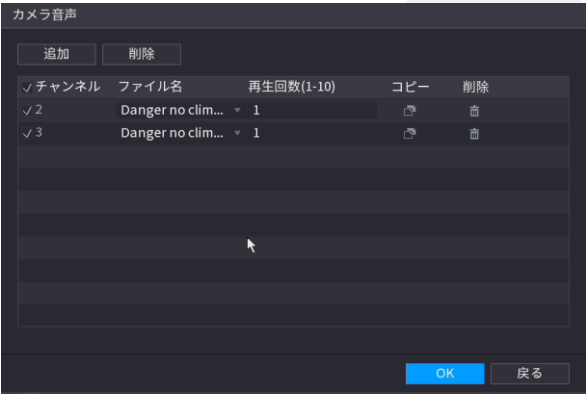
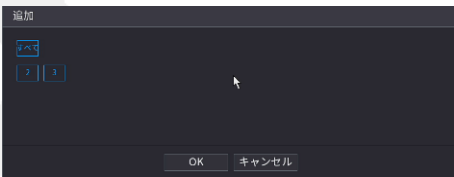
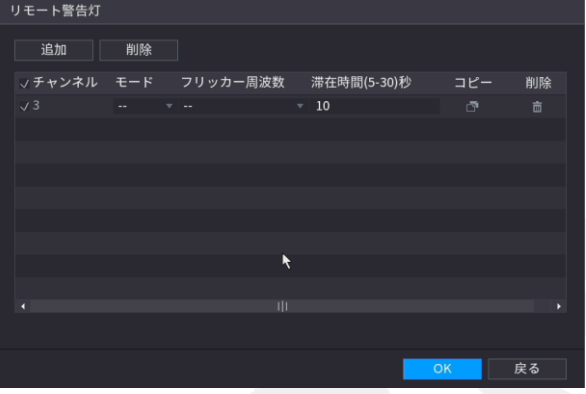
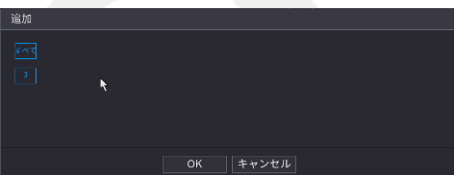
AI 動体検知、AI 境界検知や顔認識などでイベントが発生した際に、レコーダーで動作について記載します。



※ イベントによっては、項目が異なる場合があります。画像は SMD の設定画面です。

項目	概要
[スケジュール]	イベントの有効時間を設定します。青色線が有効時間範囲で、背景と同じ色の線は無効時間範囲です。タイムバー上でマウスをドラッグすると有効／無効の時間範囲を変更することができます  ※バーの横にあるをクリックすると、時間を入力する画面が表示するので、数値で入力することも可能です。  ※イベントによっては、タイムバーの色が異なります。
[アンチディザ]	イベント開始からイベント終了までの時間を設定します。
[アラーム出力]	イベントが発生した際に指定したチャンネルのアラーム出力を ON にします。 ※レコーダーの背面のアラーム  上図では“NOC”がアラーム出力「1」、 “CTRL”がアラーム出力「2」の番号です。

項目	概要
[事後アラーム]	アラーム発生時間を設定します。
[メッセージ表示]	イベントが発生した際にメッセージ画面が表示されます。 
[アップロード]	イベントが発生した際にアラーム信号をネットワーク（アラームセンターを含む）にアップロードする機能の有効／無効を設定します。
[メール送信]	イベントが発生した際に E-mail に設定された宛先にメールを送信します。
[録画チャンネル]	イベントが発生した際に映像録画を行うチャンネルを設定します。 ※[ストレージ管理]-[録画]のスケジュールにて録画するイベントのスケジュールを設定している必要があります。
[事後録画]	イベントの終了後の録画の遅延時間を設定します。
[PTZ リンク]	イベントが発生した際に PTZ 操作連動で設定されている動作を設定します。『設定』をクリックすると PTZ 動作連動設定画面が表示されます。  チャンネル毎に PTZ の動作を選択し、動作番号を入力します。  ※イベントによって、PTZ の動作の項目が異なる場合があります。
[ツアー]	イベントが発生した際にツアー動作にて表示するチャンネルを設定します。 ※カメラを接続しているチャンネルのみ表示します。
[画像保存]	イベントが発生した際に静止画保存するチャンネルを設定します。 ※[ストレージ管理]-[スナップショット]のスケジュールにて、保存するイベントのスケジュールを設定している必要があります。
[ブザー]	イベントが発生した際にブザー音の出力の有効／無効を設定します。
[ログ]	イベントが発生した際にイベントログ保存を行うか否かを設定します。
[アラーム音]	イベントが発生した際に音声ファイルの出力を設定します。   ※設定の[システム]-[オーディオ]-[ファイル管理]で mp3 のファイルをレコーダーに登録している音声ファイルが表示されます。

項目	概要
[カメラ音声]	イベントが発生した際に、接続しているカメラから、カメラに登録している音声ファイルを出力させます。  ※上部の『追加』をクリックし、下のチャンネル一覧が表示されるので、音声を出力するチャンネルを追加して下さい。  ※カメラにスピーカーが内蔵または外部スピーカー機能を搭載しているチャンネルのみ表示します。
[リモート警告灯]	イベントが発生した際に、接続しているカメラの警告灯を出力させます。  ※上部の『追加』をクリックし、下のチャンネル一覧が表示されるので、警告灯を出力するチャンネルを追加して下さい。  ※カメラに警告灯機能を搭載しているチャンネルのみ表示します。
[無線アラーム]	イベントが発生した際に、接続しているアラームハブの機器を動作させます。 ※サポート外です。

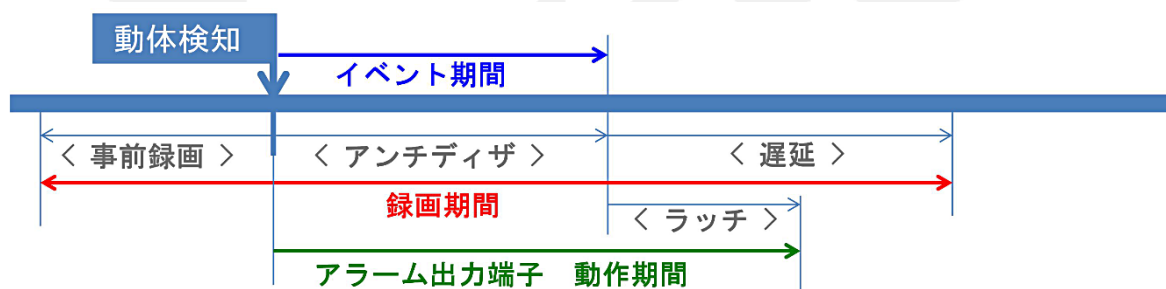
7.2. アラーム出力端子 リレー仕様

型式：	JRC-27F	
接点の材質	銀	
定格（抵抗負荷）	定格切り替え容量	DC 30V 2A、AC 125V 1A
	最大切り替え電力	125VA 160W
	最大切り替え電圧	AC 250V、DC 220V
	最大切り替え電流	1A
絶縁	同一極性を持つ接点間	AC 1000V、1分
	異なる極性を持つ接点間	AC 1000V、1分
	接点とコイル間	AC 1000V、1分
サージ電圧	同一極性を持つ接点間	1500V（10×160us）
オープン時間	最大3ms	
クローズ時間	最大3ms	
寿命	機械的	50×106分（3Hz）
	電氣的	200×103分（0.5Hz）
温度	-40℃～+70℃	

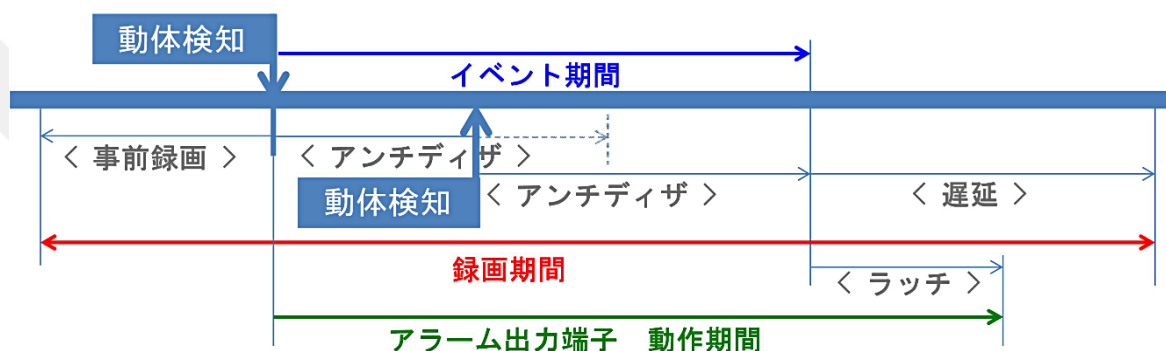
7.3. ビデオ検出毎のイベントの考え方

※下記では、「事後アラーム」：「ラッチ」、「事後録画」：「遅延」となります。

1. 「動体検知」

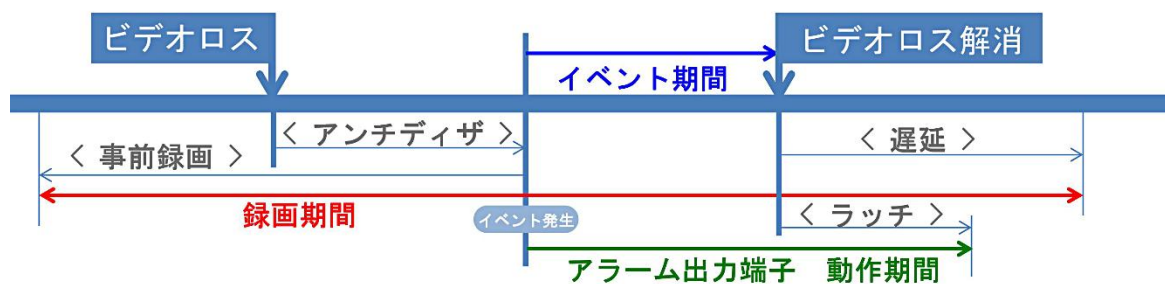


※事前録画は“通常記録”を行っていない場合のみ有効



※事前録画は“通常記録”を行っていない場合のみ有効

2. 「ビデオロス」/「マスキング」
「ビデオロス」と「マスキング」の設定の考え方は同じです。



※事前録画は“通常記録”を行っていない場合のみ有効

以上